

# アニュアルレビュー 2023

Annual Review



# 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2-11  
TEL:043-276-5111(総合受付)  
<https://www.ouj.ac.jp/>



## ロゴマーク

40周年を記念して、記念ロゴマークを4タイプ作成。各部署で、タイプを選択して発信・PRを行った。



## 記念式典・シンポジウム

2023年10月31日(火)学術総合センター内一橋講堂にて記念式典並びに記念シンポジウムが230人の来場者の中、執り行われた。またその後、祝賀会が如水会館にて開催された。

## Annual Review アニュアルレビュー 2023 CONTENTS

◆ 発刊に寄せて 岩永 雅也	3
◆ 特集(2023年度の主な出来事)	5
◆ 学生に向けた教育	7
◆ 社会に向けた教育	14
◆ 放送大学における研究	20
◆ 国際交流への取り組み	32
◆ 教員による社会貢献	34
◆ 学習センター・学生の活動	41
◆ データで見る放送大学	46

# 放送大学創立40周年

放送大学は、1983(昭和58)年4月に設置され本年、40周年の節目を迎えた。

創設以来、一貫して「学びたい人が、いつでも、どこでも学べる開かれた大学」の実現に努め、これまでに累計学習者数約186万人を超え、卒業生・修了生は14万人を超えるまでに達した。またこの40周年である2023年度には、様々な40周年記念事業を実施した。



## 2023(令和5)年度放送大学学位記授与式

2024年3月23日(土)に2023(令和5)年度放送大学学位記授与式を東京都新宿区ベルサール高田馬場において挙行了。今年度の学部卒業生は6,280名、大学院修士課程は219名、大学院博士後期課程修了生は3名の計6,502名が卒業・修了した。卒業証書・学位記授与(教養学部卒業生総代今泉さかえさん、修士課程修了生総代藤井圭美さん、博士後期課程修了生総代安齋久美子さんが壇上で受領)の後、岩永学長による式辞、あべ俊子文部科学副大臣、山崎良志総務省情報流通行政局官房審議官、放送大学同窓会連合会の南谷雄司会長による祝辞に続き教養学部卒業生総代白倉紀和さん、修士課程修了生総代中石昭夫さん、博士後期課程修了生総代北野雅人さんによる謝辞があった。学長表彰では、『放送大学名誉学生』として111名が表彰され、『優秀授業賞』を島内裕子教授と宮本徹准教授が受賞した。

また、高橋理事長より放送大学チャレンジ募金(放送大学創立40周年記念募金)の感謝状が贈呈された。



## 表紙: 放送大学鉄塔モニュメント

放送大学学園の放送研究図書資料棟(現:放送・研究棟)屋上に設置されていた、放送大学の番組を東京タワーへ伝送するためのパラボラアンテナを支える鉄塔の一部。1983(昭和58)年から2021(令和3)年まで設置され、放送大学のシンボルとされていた。地上波放送が終了し、パラボラアンテナが不要になったことにより、鉄塔はその使命を終え2021(令和3)年に解体・撤去されたが、放送大学の遠隔教育の歴史を物語る資料として、その一部を保存・公開することとした。



## 記念展示

文部科学省2階エントランスの情報ひろばをはじめとして、幕張本部管理棟1階ホールにてパネル及び40周年記念動画等を展示。そして、巡回展示を全国合計18カ所の学習センターにて実施した。



## 記念番組

～見えない友と共にまなぶ～

放送・通信技術の発達などで、学習を取りまく環境が大きく変化する中、「開かれた大学」という設立の理念を守り続けてきた放送大学。その40年の歴史を、貴重な映像と、歴代の理事長・学長、卒業生のインタビューでたどった。



【企画】2023年度放送大学学内広報委員会  
委員長：生活と福祉／戸ヶ里 泰典 教授  
副委員長：人間と文化／大橋 理枝 教授  
生活と福祉／山田 知子 教授 心理と教育／波田野 茂幸 准教授  
社会と産業／迫田 章義 教授 情報／秋光 淳生 准教授  
自然と環境／橋本 健朗 教授 茨城学習センター／小野寺 淳 所長  
学習センター支援室／笹田 慶太 室長  
オブザーバー：林 徹 副学長  
事務局：総務部広報課

【編集】2024年度放送大学学内広報委員会  
委員長：生活と福祉／戸ヶ里 泰典 教授  
副委員長：自然と環境／橋本 健朗 教授  
生活と福祉／山田 知子 教授 心理と教育／高梨 利恵子 准教授  
社会と産業／山岡 龍一 教授 人間と文化／杉森 哲也 教授  
情報／平岡 齊士 准教授 茨城学習センター／小野寺 淳 所長  
学習センター支援室／小野 耕志 室長  
オブザーバー：林 徹 副学長  
事務局：総務部広報課

## 創立40周年を機に 新たな一歩を

放送大学長 岩永 雅也



### COVID-19ひとまずの“収束”

去る2023年5月8日より新型コロナウイルス感染症(以下、COVID-19)の位置づけが2類相当から5類感染症へと変更されました。それにより、ひとまずCOVID-19の感染収束が公式に認められたことになりました。2023年度、放送大学の変化にとっての最大の外生要因は、まさにその「COVID-19の感染収束」だったと言えるでしょう。

COVID-19のひとまずの感染収束により、放送大学においてもさまざまな活動を2019年度以前の形に戻すことができました。ただ、感染症対策として採用された便宜的な実施方法に有用性や利便性が認められたためにそのままの形で残ったものも少なくありません。とりわけ、本学は全国に学習センター等の施設をもち、それらに所属する学生も広く全国に居住しているため、広範な地域の教職員が同時に参加する会議や学生への遠隔指導等に関しては、感染症拡大期に採られたZoom等の会議方式、ゼミ方式等がそのまま使われている例が多く見られます。現在、種々の要因により財政的に厳しい状況にある本学にとっては、教員の教育・研究活動、あるいは教職員の大学運営活動に進化したICT(情報通信技術)を最大限利用することが強く求められているところでもあります。もちろん、そうしたICT利用によって教育の効果や研究の進展、会議の効率性に支障が出てしまうことがあってはなりません。本アニュアルレビューの各セクションをご覧になればわ

かるように、2023年度の本学の諸活動は以前にもまして活発かつ効率的に行われました。そのことが、感染症収束後の私どもの対応が間違っていなかったことの証左になるのではないかと、内心ひそかに思っているところです。

### 放送大学創立40周年

そんな「活動復調の年」としての今年度には、もう一つ、放送大学が開かれてから40周年の年、という側面もありました。本学は、放送大学学園が運営する特別な私立大学(当初は特殊法人立大学)として1983年に開学し、爾来40年間、日本では他に類のない放送による遠隔大学として教育活動を続けてまいりました。ちなみに、大学本部のある千葉市幕張地区にほど近い千葉県浦安市の東京(!)ディズニーランドとは、偶然ながら「同い年」という巡りあわせになります。それはともかく、放送大学では創立から40年目の節目の年を記念して2023年10月31日に大学創立40周年記念式典と祝賀会を挙行し、多くの来賓、関係者の方々から温かいお祝いの言葉を頂戴いたしました。また、同



40周年記念式典



次世代教育研究開発センター

日、併せて「チャレンジ!放送大学〜ひとりひとりに最適な学びをめざして〜」をテーマに、シンポジウムも開催し、パネリストの方々に、放送大学の来し方とそこでの自らの学修体験、そしてこれから先の10年、20年に期待する大学の在り方など、自由闊達に語り合ってもらいました。なお、その様子は「放送大学創立40周年記念サイト」でも録画視聴することができます。

### 新たな組織のスタート

2023年度には、大学の組織の上での大きな出来事もありました。昨年度の『アニュアルレビュー2022』のこの頁では、「来年度は大学の機能を見直し」「教育の効率化にいっそう力を入れた」と宣言を記しました。その宣言を実行するため、「どんなメディアを使って、どのような教育をするのがより効果的か、また、そのためのコンテンツをどう効率的に制作していくか」といった調査研究そして開発を行うための機関「次

世代教育研究開発センター(以下、次世代センター)」の設置を決定し、2024年4月1日より活動を開始いたします。新生次世代センターでは、効率よく学べる授業を探究しつつ、同時にいくつかの授業番組を実験的に制作してコストダウンの方法も模索します。それにより、放送大学での教育の今後に役立てていくことを目指します。

また、データ収集と分析のための「IR室」も、同時期に組織化を目指してまいりました。今年度初に立ち上げられたIR準備室の活動によって正式なIR室設置の目途が立ち、次世代センターと同様2024年4月1日より活動を開始いたします。もちろん、大学ではこれまでもさまざまなデータ分析は行ってきましたが、その結果を大学運営に有効活用してきたとは言い難い状況にありました。IR室の活動を通じて大学を見つめ直すことは、大学の改革をさらに進めていくうえで大きな力になると確信しております。

## 【特集】2023年度の主な出来事

## 次世代教育研究開発センターが創設されました！

次世代教育研究開発センター長 中川一史  
(2024年4月1日～)

放送大学では、デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進や生成AIの台頭などの社会状況を踏まえ、次世代教育に関する先駆的な研究開発を行い、内外のあらゆるネットワークを形成する、次世代教育研究開発センターを創設した。その目的を達成するため、本センターでは、「学習研究部門」と「経営戦略部門」の2つの部門が設置されている。

「学習研究部門」は、3つのユニット構成になっている。まず、「評価・分析ユニット」では、データ活用の推進に必要な、学習履歴データの収集・蓄積と、利用規則、利用手順の整理をした上で、学習履歴データ等の体系的な分析、および教員向け、学生向けの視覚化を行う。また、初等中等教育を含めたメディア教育、放送教育の歴史、さらにはデジタル教材の現状、課題を調査し、知見をまとめる。次に、「手法・教材開発ユニット」では、学習評価手法や教材制作支援・デリバリー手法、教育方法・学習支援手法の研究開発を行う。教材制作DXプロジェクトでは、印刷教材、映像素材、完プロ、ラジオ音声、などのコンテンツとシラバス、台本、字幕、著作権情報などを一元的に管理して、教材制作に関する情報の共有と流通を容易にする。

最後に、「学修支援・交流ユニット」では、アクセスの平等化、コラボレーションの促進、リソースの集約、パーソナライゼーション、教員のサポートを目的とし、バーチャラーニング commons の構築・試行

を行う。また、化学実験のシミュレーションや歴史的・文化的場所のバーチャルツアーや外国語演習など、XR(AR/MR/VR)を活用して今まで遠隔教育では困難であった演習を開発し、実装することにより、遠隔学習の可能性を広げることに資する研究を行う。さらに、国内外の大学と連携して、マイクロクレデンシャルを軸にした単位互換等を可能とすることにより、学生に国際的な学習体験を提供するとともに、教材などの教育・研究リソースを相互に共有し、学生や教員の学習・研究環境を向上することに資する研究を行っていく。

一方、「経営戦略部門」は、「学びたい人が、いつでも、どこでも、学べる開かれた大学」を推進する研究開発テーマを学内公募したり、研究開発テーマを実装につなげる教職員・チームを学内募集したりしていく。具体的には、「誰にでも学びやすい教育手法・技術の開発」「思い立ったらそのときから学べる教育手法・技術の開発」「どこにいても学べる教育手法・技術の開発」「学外との連携による教育手法・技術の開発」を行っていく。本センターの主な役割は、次世代教育に関する先駆的な研究開発を行い、研究成

果を実装にまでつなげていき、学内外に貢献していくことである。

そして、両部門とも、教員や各部の職員など学内から、さらに外部の研究員を招いて、チーム放送大学学園で推進していく。

このように、次世代教育研究開発センターでは、放送大学におけるこれまでの教育実績を基にしながら、「ひとりひとりに最適な学び」に寄与できる新たな取り組みや研究開発に、そしてDXに、失敗を恐れず、挑戦を進めている。



「次世代教育研究開発センターパンフレット」より

## ハイフレックス型講義の試行の開始

副学長 加藤 和弘

放送大学では、毎年およそ3000の面接授業が開講されるが、その受講のためには学習センターに出向かなければならない。関心のある内容の授業が遠方の学習センターで開設されていたなど、学習センターに出向くことができないために面

接授業受講を断念したという声が届くことも少なくない。

情報通信技術の進歩に伴い、放送大学では従来の放送授業と面接授業に加え、2015年度からオンライン授業を、2021年度からは同時双方向web授業(2022

年度にライブweb授業と改称)を開設するようになった。受講者からの評価も高く、科目数、受講者数ともに年々増加している。一方で、講義室で教員の声を直に聞きながら授業を受けたいという要望も根強い。そこで考えられたのが、面接授業

とライブweb授業のそれぞれの方法を組み合わせ、面接授業のように学習センターで講義を行いつつ、その内容をオンラインで配信し自宅などからも視聴できるようにし、さらに質疑や討論の際には配信先からもそれに参加できるようにする、という講義形式である。これを、高度な柔軟性(フレキシビリティ)を持った講義、ハイフレックス型講義と称し、2023年度の2学期に、岡山、山梨2つの学習センターのご協力の下に試行を行った。

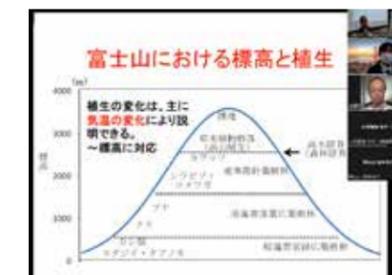
試行では、私自身が担当した面接授業を、同じ学習センターの別室、異なる学習センター、大学本部などに配信し、講義室の外からも授業に問題なく参加できることを確認した。愛媛県新居浜市の生涯学習センター(放送大学の学習センターとは別の組織)にもご協力を賜り、講義の一部にご参加いただいた。問題ないことをご確認いただいただけでなく、放送大学の授業に更なるご関心をお持ちくだ

さったと伺っている。同時に、著作権に配慮しつつ講義資料を配付する方法、講義室で受講する学生と遠隔で受講する学生の間で不公平が生じない成績評価などが、解決すべき課題として認められた。ハイフレックス型講義は従来の面接授業における制約を大きく解消できる可能性を持つ。2024年度にもさらに試行を行い



ハイフレックス型講義実施中の講義室。通常の面接授業における講義と変わるところはほとんど無いが、講師の様子を映すカメラや、学生の発言の際の音声を拾うためのマイクが空いているスペースに設置されていた。

つつ、課題の解消に向けた対応を進めていく。また、学習センターにおけるゼミなどにこのやり方を取り入れてはどうか、上述の新居浜生涯学習センターの形を参考に地域連携の手段とするのはどうか、といったご意見も頂いている。実施の体制を着実に整備し、放送大学における教育の新たな方法として育てていきたい。



遠隔からのモニター参加者が見ていた画面。講義室で映写されていた資料が画面共有の形で大きく表示され、講師や他の参加者は右上の方に小さな画面で表示されていた。

放送大学の教材を活用した  
高校生の先取り学習プロジェクト

先取り学習プロジェクト研究代表者 岩崎 久美子

放送大学では、2022年度から、「教学Vision 2027」に掲げられた「他大学等との連携・単位互換方式の推進」におけるアクションプラン「高校生対象の先取り学習プログラムの試行的提供」に基づくプロジェクトを実施している。

2022年度には、千葉県立長生高校との共同プロジェクトとして、長生高校での受講希望者を募り、それらの生徒にオープンコースウェアで視聴できる1科目を選択してもらい、放送大学が印刷教材を供与、夏季休業期間中に学習体験してもらった。また、生徒や教員の授業資料として活用してもらえるよう、放送大学の印刷教材を長生高校の学校図書館に寄贈した。



千葉県立長生高校・科目履修生7名の放送大学訪問(見学学習会)

学校の厚意的な働きかけがあったこともあり、生徒の受講希望者は39名にのぼった。夏季休業期間終了後に、受講した生徒、校長、担当教員らへのインタビュー調査を通じ、大学が近隣にない進学校においては、放送大学の教材は生徒たちが大学教育に対するイメージや知識を得ることに寄与し、また教育現場での進路指導の資料や探究学習の教材としても有益であることが明らかとなった。2年目となる2023年度は、夏季休業期間中のオープンコースウェアと印刷教材による学習に長生高校からは21名の参加、公立と私立との差異に基づく制度的検討を行うために新たに協力してくれた工学院大学附属高校からは11名の生

徒の参加があった。なお、長生高校では、今年度から夏季休業期間中に放送大学の教材活用による学習で一定の成果を収めた生徒に対し、単位認定をする制度を設けた。

加えて、2023年度は、新たなチャレンジとして両校の生徒に対し、放送大学の科目履修生を募集、9名の生徒が科目履修生に登録、そのうち単位認定試験を受験した5名全員が合格し、放送大学の単位を取得した。

放送大学では千葉県教育委員会と連携協定を締結していることから、長生高校との間で検討してきた先取り学習のモデルについて、他の千葉県立高校での適用可能性を探ると同時に、高校生の先取り学習の事業化の方向性を検討している。今後は、高校生が放送大学で取得した単位を他大学で認定してもらえるよう高大連携の体系的ビジョンを明確にし、放送大学の教材活用が高校の教育内容の広がりや深まりに役立ち、生徒の学習への動機づけやキャリア意識の醸成に寄与できることを社会に提示できればと考える。

## 学生に向けた教育

### 放送授業(テレビ・ラジオによる授業)



放送授業は、BSテレビ(231ch、232ch)またはBSラジオ(531ch)で受ける授業である。科目によってテレビ科目とラジオ科目に分かれており、BS放送やケーブルテレビなどを通じて、全国で放送されている。なお、学生専用サイト(システムWAKABA)では、全ての科目をインターネット上で配信しており、時間と場所を選ばずにパソコンやスマートフォンなどで視聴可能である。1コマ45分の授業が15コマで構成された2単位科目である。

2023年度は、学部290科目、大学院54科目の合計344科目を開講している。制作された放送授業は、原則として4年から6年間開講し放送するため、全開講科目の5分の1前後が毎年入れ替わる。2023年度の新規開設科目は、学部47科目(テレビ26科目、ラジオ21科目)、大学院3科目(ラジオ3科目)の合計50科目である。

#### 2023年度 開設科目数

	テレビ科目	ラジオ科目	計
学部	168	122	290
大学院	5	49	54
計	173	171	344

#### 2023年度新規開設科目(基盤科目)

基盤科目	科目名	メディア
	より良い思考の技法('23)	テレビ

#### 基盤科目(外国語)

ドイツ語Ⅰ('23)	テレビ
ドイツ語Ⅱ('23)	ラジオ
中国語Ⅰ('23)	テレビ
中国語Ⅱ('23)	ラジオ

#### 2023年度新規開設科目(コース科目)

##### 生活と福祉

導入科目	科目名	メディア
	健康と社会('23)	ラジオ
	貧困の諸相('23)	ラジオ
専門科目	持続可能な社会と生活('23)	テレビ
	ソーシャルシティ('23)	テレビ
	リスクコミュニケーションの探究('23)	ラジオ
	今日のメンタルヘルス('23)	テレビ
	地域・在宅看護論('23)	テレビ
	高齢期を支える('23)	ラジオ
	社会政策の国際動向と日本の位置('23)	テレビ

##### 心理と教育

専門科目	新時代の生徒指導('23)	テレビ
	教育の行政・政治・経営('23)	ラジオ
	日本の文化と教育('23)	ラジオ
	知覚・認知心理学('23)	テレビ
	進化心理学('23)	テレビ
	精神分析とユング心理学('23)	ラジオ
総合科目	色を探究する('23)	テレビ

##### 社会と産業

導入科目	一般市民のための法学入門('23)	ラジオ
専門科目	現代国際社会と有機農業('23)	ラジオ
	人生100年時代の家族と法('23)	テレビ
	ファイナンス入門('23)	テレビ
	経営情報学入門('23)	テレビ
	SDGs下のアジア産業論('23)	ラジオ
	サービスサイエンス('23)	ラジオ
	イノベーション・マネジメント('23)	ラジオ
	環境を可視化する技術と応用('23)	テレビ
総合科目	住まいの環境論('23)	テレビ

##### 人間と文化

導入科目	哲学・思想を今考える('23)	ラジオ
	博物館概論('23)	テレビ
専門科目	現代に生きる現象学('23)	ラジオ
	英米哲学の挑戦('23)	ラジオ
	古代中世の日本('23)	テレビ
	樋口一葉の世界('23)	ラジオ
	博物館経営論('23)	ラジオ

##### 情報

導入科目	情報と法('23)	ラジオ
専門科目	自然言語処理('23)	ラジオ
	ヒューマンインタフェース('23)	テレビ*
	データベース('23)	テレビ

##### 自然と環境

導入科目	分子の変化からみた世界('23)	テレビ
	かたちの化学 化学の考え方入門('23)	テレビ
専門科目	感覚と応答の生物学('23)	テレビ
	微分方程式('23)	テレビ*

##### 資格取得等に資する科目

夏季集中型科目	司書教諭資格取得に資する科目	
	学校経営と学校図書館('23)	テレビ*

#### 大学院 2023年度新規開設科目

臨床心理学	臨床心理学特論('23)	ラジオ
	臨床心理学研究法特論('23)	ラジオ
情報学	音楽・情報・脳('23)	ラジオ

### 面接授業(スクーリング)

面接授業(スクーリング)は、学習センターなどで教員から直接指導を受ける授業である。また、学友と共に学んだり、教員と交流を深めたりできる貴重な機会である。全国50カ所の学習センターと、全国7カ所のサテライトスペースで、年間約3,000クラスが開講されている。

面接授業はすべて、1科目1単位で、1時間30分の授業7回、45分の授業1回、計8回で構成されている。また、教室の中だけでなく、学習センター以外の場所で実習等を行う授業も開講している。

2023年度は、2,725科目(1学期1,353科目、2学期1,372科目)を開講した。



#### 導入科目

### 人間と文化 山形の郷土料理 - 今昔探究

講師 石垣 和恵(山形大学学術研究院(地域教育文化学部担当)准教授)  
藤田 洋治(元山形大学学術研究院(地域教育文化学部担当)教授)

開講日 2023年5月20日(土)~21日(日)

#### 【授業テーマ】

- 第1回 山形の郷土料理概観(石垣)
- 第2回 『聞き書 山形の食事』にみる庶民の食生活(石垣)
- 第3回 『かてもの』飢饉に備えた上杉藩の知恵(藤田)
- 第4回 『かてもの』の知見を防災備蓄食に発展させる(石垣)
- 第5回 『聞き書 山形の食事』から昭和の食事体験【調理】(石垣)
- 第6回 『聞き書 山形の食事』から昭和の食事体験【試食】(石垣)
- 第7回 地域により異なる笹巻づくり【調理】(石垣)
- 第8回 『和歌食物本草』-和歌で知る食物の知識(藤田)



この授業では、昭和初期までの庶民の食生活について、講義と実習を通して学びました。講義では、上杉藩の「かてもの」などの先人の知恵を学びつつ、『和歌食物本草』から、飢饉に備えた先人たちの知識を学びました。実習では、山形に伝わる黒豆ご飯、細竹の味噌汁、身欠きにしんとフキの煮物、油味噌、笹巻の調理を、班に分かれて行いました。



笹巻とは、もち米を笹の葉で巻き、ひもで結んだ後に熱湯で茹でたもので、山形県内でも地域によってもち米の包み方、茹で方が異なります。授業では、各地域の笹巻作りを映像資料を通して学びました。5月の食材を使った郷土料理を実際に作り味わい、当時の山形の庶民の知恵と文化を深く理解することができました。

学生からは、「『かてもの』を通して食の考えを改めて知ることができた」「家でも実際に郷土料理を作ってみようと思うようになった」「実習と古文書の複合授業がとても面白かった」といった声が寄せられました。

山形の郷土料理を学ぶ授業ということで、山形の学生を中心に広くご参加いただきました。授業は食の文化と歴史を探究する面白い機会であり、注目度も高く、授業を通じて新たな視点や知識を得ることができると好評を得ています。



授業紹介  
島根  
学習センター

専門科目:自然と環境

斜面災害の発生と対策

講師 小暮 哲也(島根大学総合理工学部・准教授)  
開講日 2023年10月21日(土)、22日(日)  
場所 島根学習センター、雲南市大東町山王寺

【授業テーマ】

- 第1回 斜面災害の概要
- 第2回 斜面災害の発生メカニズム
- 第3回 実体視の習得
- 第4回 地すべり地域の空中写真の実体視
- 第5回 山王寺の棚田と地すべりの見学1
- 第6回 山王寺の棚田と地すべりの見学2
- 第7回 斜面災害の対策1
- 第8回 斜面災害の対策2



日本の国土面積の約75%は山地で占められているといわれ、毎年のように斜面災害(土石流、がけ崩れ、地すべり)が発生しています。今回の面接授業では、1日目は斜面災害の発生メカニズムや対策、空中写真を使った地すべりの判読作業を学び、2日目の午前は雲南市山王寺の棚田を訪れて、地すべりの発生現場と土地の利用を見学しました。山王寺の棚田は地すべりによって傾斜が緩やかになったことで耕作に適すようになり、地すべりの要因の一つとなった豊富な地下水は稲作に利用され、災害と共生する土地となっているとのことでした。午後は学習センターに戻って斜面災害の対策を学び、斜面災害への理解を深める授業となりました。



専門科目:人間と文化

海峡のまち上関の歴史と文化

講師 金谷 匡人  
(放送大学山口学習センター・客員准教授)  
開講日 2023年11月11日(土)、12日(日)

【授業テーマ】

- 第1回 上関の地理的状況(座学)
- 第2回 古代・中世の上関(座学)
- 第3回 中世の上関と海賊(座学)
- 第4回 近世の上関と朝鮮通信使(座学)
- 第5回 近世の上関と人々の生活(座学)
- 第6回 上関の街並みに歴史をたどる1(巡見)
- 第7回 上関の街並みに歴史をたどる2(巡見)
- 第8回 まとめ



山口学習センターを離れ、講座内容の舞台である山口県熊毛郡上関町において行いました。関東からの複数名を含め山口県内外から熱心な学生さんが集いました。瀬戸内海運の要港であった上関に関わる歴史や民俗、そして講座室も飛び出して現地での巡見学習など、いささか盛り込みすぎた感があって受講生もたいへんだったと思います。座学では上関の通史とともに、豊臣秀吉の朝鮮出兵や、江戸時代の人々が熱狂的に迎えた朝鮮通信使をはじめとする起伏にとんだ日朝関係史が、現今の日本を取り巻く地政学上の諸問題に照らして学ぶべきものが多いこと、また教科書的には身近でない海辺民や海賊、海運等の海の歴史がいかに日本の中で大きな役割をもっていたかを学びました。そして半日を費やした巡見学習では、かつての名残を残す上関港周辺のたたずまいや座学で学習した関連史跡を訪ね、上盛山展望台の眺望からは、風景(地理)と歴史がいかに密接に関係していたかを学びました。私自身もこの面接授業を契機に関係地への調査旅行を重ねて多くの知見を得、その成果は受講生の皆さんと共有できました。実施にあたって上関町教育委員会の全面的ともいえる援助を受けたことを感謝します。

オンライン授業

オンライン授業は、インターネットに接続されたパソコンなどを使い講義を視聴し、学習活動や成績評価の課題(選択式問題、レポート、ディスカッション等)に取り組む授業である。1単位(8コマ)の科目と、2単位(15コマ)の科目があり、1コマあたり、講義が45分程度と学習活動が45分程度を合わせた90分程度である。成績評価は課題により行うため、通信指導や単位認定試験はなく(一部科目は単位認定試験を実施)、自宅や職場

などインターネット環境があれば、場所や時間に縛られることなく自分のペースで学ぶことができる。

2023年度1学期は、2022年度に制作された教養学部5科目と大学院修士課程4科目、を新規開講した。また、2024年度1学期開講の教養学部6科目と大学院修士課程4科目が新規制作された。

2023年度教養学部 新規開設科目

コース	科目名	単位数
社会と産業	専門科目 全体主義と新自由主義のあいだ('23)	2
人間と文化	総合科目 時間を究める('23)	1
情報	専門科目 続・C言語基礎演習('23)	1
	情報セキュリティの理論と基盤('23)	1
	情報セキュリティの現状と展望('23)	1

2023年度大学院修士課程 新規開設科目

プログラム	科目名	単位数
社会経営科学	都市社会構造論('23)	2
情報学	情報とコミュニケーション('23)	2
	教育情報システム設計('23)	1
自然環境科学	生態学における情報リテラシー('23)	2

オンライン授業科目数推移

	2015		2016		2017		2018		2019		2020		2021		2022		2023	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	
制作科目数 (コマ数)	11 (116)		13 (160)		12 (159)		10 (136)	14 (129)		12 (109)	9 (114)	9 (100)					10 (126)	
運用科目数	2	2	10	13	20	26	38	48	50	61	72	75	78	82				

ライブWeb授業

2021年度に「同時双方向Web授業」としてスタートした本授業形態は、2022年度以降、「ライブWeb授業」と名称を改めた。「ライブWeb授業」は、Web会議システム(Zoom)を利用した授業と、オンライン授業の利点を活かした新たな授業形態である。学生は学習センターではなく、自宅等でPC等を用いて受講する。授業当日は、専用のシステムから各回の仮想の講義室(Zoomミーティング)へ入室して授業を受講する。授業によっては学生同士のグループワークを行うこともある。また、講義資料や、講師からのお知らせ、後日提出が必要なレポート等、講義時間外に取組みや確認が必要な活動が当該システム上で示される場合がある。

2021年度第2学期には9科目を開講した本授業形態は、年々科目数を増やし、2023年度は1学期31科目、2学期42科目を開講した。2024年1学期には70科目を開講準備中である。なお、いずれも教養学部のみを開講である。学習センター開催のライブWeb授業を全国の学生が自宅から受けることができることも魅力のひとつで、学生のニーズも開講数も年々増加している。

ライブWeb授業科目数推移

	2021		2022		2023	
	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期
開講科目数	9	16	14	31	42	

## 科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)



「科目群履修認証制度(放送大学エキスパート)」は、本学が2006年から実施している学習プログラム(履修証明プログラム)で、学校教育法第105条「履修証明制度」に対応している。本学が指定する特定の授業科目群17プランに沿って専門分野を体系的に学び申請することで、修了者には法に基づく認証状と証明書のほか、希望者には携帯できる認証カードが交付される。履歴書への記載や、博物館などボランティア活動に役立つ。

2024年1月31日までの累計認証取得件数は33,721件である。

### 学校教育法第105条「履修証明制度」とは…

社会人などを対象とした、2007年に始まった新しい履修・学習の証明制度。大学などが開設した一定のまとまりある学習プログラム(履修証明プログラム)の修了者に対して、大学などが法に基づく「履修証明書」(certificate)を交付できる制度(詳細は文部科学省のホームページを参照:[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/shoumei/](https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shoumei/))である。

2023年度認証プランと認証状取得者数(2024年1月31日現在)		
認証プラン名	認証状の名称	認証状取得者数
健康福祉指導プラン	健康福祉運動指導者	3,038
福祉コーディネータプラン	福祉コーディネータ	3,074
社会生活企画プラン	社会生活プランナー	1,545
心理学基礎プラン	心理学基礎	4,738
臨床心理学基礎プラン	臨床心理学基礎	2,809
異文化コミュニケーションプラン	異文化理解支援	1,424
宇宙・地球科学プラン	宇宙・地球科学	893
環境科学プラン	環境科学の基礎	882
芸術系博物館プラン	芸術系博物館活動支援	1,502
歴史系博物館プラン	歴史系博物館活動支援	1,731
自然系博物館プラン	自然系博物館活動支援	788
工学基礎プラン	工学基礎	473
地域貢献リーダー人材育成プラン	地域貢献リーダー人材	709
日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成プラン	日本文化を伝える国際ボランティア・ガイド(基礎力)養成	323
学校地域連携コーディネータープラン	学校地域連携コーディネーター	223
データサイエンスリテラシープラン	データサイエンス・リテラシー	302
データサイエンスアドバンスプラン	データサイエンス応用基礎	178
実践経営学プラン*①	経営の理解	647
ものづくりMOTプラン*①	ものづくりとMOT(技術経営)を学ぶ	396
コミュニティ学習支援プラン*①	地域生涯学習支援	342
アジア研究プラン*①	アジア研究	522
エネルギー・環境研究プラン*①	エネルギー環境政策論	340
社会探究プラン*②	現代社会の探究	710
次世代育成支援プラン*②	次世代育成支援	1,342
生命科学プラン*②	生命人間科学	970
社会数学プラン*②	数学と社会	524
食と健康アドバイザープラン*③	食と健康アドバイザー	972
人にやさしいメディアデザインプラン*③	人にやさしいメディアのデザイン	214
データサイエンスプラン*③	データサイエンス	184
市民活動支援プラン*④	市民政策論	743
日本の文化・社会探究プラン*④	日本の文化と社会	760
計算機科学基礎プラン*④	計算機科学の基礎	423
合計		33,721

\*①がつくプランは、2019年3月31日をもって廃止しましたが、経過措置として2024年3月31日まで申請が可能です。  
 \*②がつくプランは、2021年3月31日をもって廃止しましたが、経過措置として2026年3月31日まで申請が可能です。  
 \*③がつくプランは、2022年3月31日をもって廃止しましたが、経過措置として2027年3月31日まで申請が可能です。  
 \*④がつくプランは、2023年3月31日をもって廃止しましたが、経過措置として2028年3月31日まで申請が可能です。

## 寄附科目

本学では、様々な機関からの支援を受け、社会の要請に応じた寄附科目を開設している。2023年度には、1科目の寄附科目を放送した。

2023年度開設寄附科目		
科目名	寄附団体名	メディア
著作権法('22)	日本音楽著作権協会(JASRAC)	ラジオ

## キャリアアップ支援【資格取得】

### 教員

本学では、現職教員が教育職員検定により、上位や他教科等の教員免許状を取得しようとする際に必要な科目の一部又は全部を履修することができる。

- ▶ 上位・他教科・隣接校種の教員免許状
- ▶ 特別支援学校教諭免許状(知的障害者教育領域・肢体不自由者教育領域)
- ▶ 養護教諭の上位の免許状
- ▶ 栄養教諭免許状
- ▶ 学校図書館司書教諭資格



### 看護師

准看護師として7年以上の就業経験を有し、看護師学校養成所2年課程(通信制)に入学して、65単位以上を修得して卒業すると、看護師国家試験を受験することができる。その際、放送大学で修得した単位を各養成所の判断により、総修得単位の2分の1を超えない範囲で当該養成所において修得したものと認定を受けることができる。なお、カリキュラム改正により、2023年度入学生から総単位数が68単位以上に変更となった。

また、放送大学大学院では、看護師の特定行為研修科目のうち、共通科目(講義・演習部分)をオンライン授業として全国の看護師に科目を提供している。なお、2024年3月現在、本学は指定研修機関36機関の協力施設となっている。

- ▶ 看護師国家試験受験資格
- ▶ 看護師の特定行為研修制度対応科目



### 心理学

本学で人気のある心理学は、科目が豊富で、生活や仕事に役立つ知識を得られるだけでなく、資格取得を目指すことも可能である。

日本心理学会が認定する「認定心理士」は、心理学に関する標準的な基礎知識と基礎技術を正規の課程において修得していることを認定する資格である。心理職を目指す人には大切な第一歩であり、本学ではこれまでに13,500人以上が資格取得要件を満たしている。

また、臨床心理学にもとづく知識や技術を用いて心理的な問題を取り扱う「臨床心理士」は、内閣府の認可する公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が認定し、公立学校スクールカウンセラーの資格要件になるなど、公的にも認められている。本学大学院は、受験資格を得るために同協会が指定する大学院(2種)で、修士全科生として臨床心理学プログラムを修了し、修了後合計1年以上の心理臨床実務経験を積んだ後に受験可能になる。本学での臨床心理士資格審査の合格率は、85.2%であった(2022年度の実績)。

「公認心理師」は2015年に成立した「公認心理師法」に基づく、心理職初の国家資格である。本学では、2019年度より学部段階における公認心理師カリキュラムを開設した。なお、対応科目のうち「心理演習」と「心理実習」の2科目を受講するためには選考試験に合格する必要がある。(受講者定員は全体で30名。2024年度「心理演習」「心理実習」受講のための選考試験の出願倍率は20.9倍。)

※本学では大学院段階のカリキュラムには対応していない。

#### ▶ 認定心理士

本学で修得した単位は、その他以下の資格取得等のために活用することができる。

- ▶ 学芸員資格
- ▶ 社会教育主事任用資格
- ▶ 社会教育士
- ▶ 社会福祉主事任用資格
- ▶ 介護教員講習会の対応科目



## 特別な学生支援

本学では、障がいのある方で、特別な対応がないと学習に支障をきたす恐れがある場合、障がいの特性に応じた配慮として、様々なサポートを行っている。

視覚障がい等により印刷教材を読むことが困難な方への支援として、希望者には印刷教材のテキストデータを提供している。また、国立国会図書館視覚障害者等用データ送信サービスへの印刷教材テキストデータの提供を行っており、2023年度からはテキストデジターデータの提供も開始した。

聴覚障がい等がある学生への支援としては、テレビ授業科目や

特別講義における字幕挿入を行っている。また、インターネット配信では、一部のラジオ科目でも字幕視聴が可能になっている。

単位認定試験では、Web単位認定試験において、障がいがあることによりWeb画面操作が困難である方、読み上げ機能を使用する方等に試験時間の延長を認めた他、Web受験ができない方については、これまでと同様に学習センターに来所していただき、音声問題や点字問題による出題や、別室や希望座席での受験を認める等の配慮も実施した。

## 学生の研究成果の公開

本学(学部)では、学生が指導教員から直接、指導を受ける機会を提供するため、卒業研究を開設しており、毎年多くの学生が履修している。そこで2007年度から、卒業研究の履修を将来希望する学生への情報提供として、卒業研究のテーマ一覧と、研究成果である卒業研究報告書の公開を、キャンパスネットワークホームページで開始した。

2023年度も2022年度履修者の中から、各コースで選ばれた卒業研究報告書について、システムWAKABAで公開した。

大学院については、在学生や今後の入学者への情報提供のほか、修士課程の教育研究内容が具体的に見える資料として利用されることを目的とし、修士論文を基にした学生論文集「Open Forum(放送大学大学院教育研究成果報告)」を2005年度から2021年3月刊行の第17号まで冊子体で刊行した。

また、2020年度修了生より各プログラムで選ばれた修士論文について、システムWAKABAでの公開を開始した。

一方、従来「Open Forum」が担っていた学外への発信機能を引き継ぎ、さらに強化することを目的として、2022年3月にはオンラインジャーナル「放送大学文化科学研究(The OUI Journal of Arts and Sciences)」を創刊し、Webページ(<https://oujjas.com>)での公開を開始した。オンライン化によって在学生に限らず誰からも閲覧可能となっただけでなく、ページ制限の緩和によって掲載論文の内容はより充実したものとなっている。また、博士後期課程の在籍者・修了者にも門戸を開いており、2024年2月刊行の第3巻には博士課程研究論文2件を含む計34件の論文が掲載され、従来の学生論文集の枠を超える高度な内容に至っている。



## Annual Review 2023

# 社会に向けた教育

## 生涯学習支援番組

本学は、人生100年時代における社会人の多様な学び直しのニーズに応え、実践的な知の基礎や職業的能力の向上に資する内容によって「学び直し」のきっかけを提供する、生涯学習支

援番組を2018年から放送している。

2023年度は、新規87番組を含む、全594番組の生涯学習支援番組を放送した。

## 2023年度の新規放送番組

16番目の授業	ダイナミックな地球 ジオストーリー 私たちの暮らしと地球の営み	放送大学クラシックス	失敗と発明の構造('86)
スペシャル講演	未来をあきらめない化学-地球という青いビー玉を守るうー 河川の水質調査が語るもの		文化の多様性の認識へその1('87)~人種・文化~ 文化の多様性の認識へその2('87)~日本人から学ぶもの~ 日本海域の古代史像('88)
	社会教育・生涯学習入門		数学の不思議('89) 加速器科学('90) 量子化学の発展とコンピューター('90)
“科学”からの招待状	大統合自然史第二部 地球を知る 地球と兄弟星 それぞれの道 大統合自然史第二部 地球を知る 地球史と人類史が重なるとき 大統合自然史第二部 地球を知る 南極から見る地球と生命の138億年史		酒造りの歴史と技術①('91) 酒造りの歴史と技術②('91) 民謡の伝播と変容('92) 狂言~笑いの芸術論~('93) 宇宙の始まり~創造の種~('94) 五十音図の歴史('95)
	大統合自然史第二部 地球を知る 地球はなぜ生命の星であり続けてきたのか 大統合自然史第二部 地球を知る 地球の時間 人間の時間 ~気候適応から読み解く人類固有の時間スケール~ 惑星と生命の普遍性と多様性を探る 第1回/第2回 生命にまつわる“常識”を疑う!? 第1回/第2回		鬼来迎~農村信仰と鬼舞~('96) 生物の耐凍性~植物は北の冬をどのように過ごすのか~('97) オペラを語る('00) 清朝末期の事件帖~画報を読む~('00) 日本語ワードプロセッサの開発('00) ハレー彗星がやってくる('85) 文学の受容~ゲーテの場合~('85) 海上都市のロマン('85) 日本の高等教育を展望する('86) 生きている鏡像('86) 日本の木工具('87) 私の発見した日本('87) 諸橋大漢と辞典の六十年('87) 情報通信技術のあゆみ(1)~のろしから再び光へ~('91) 情報通信技術のあゆみ(2)~光・衛星・デジタル~('91) 戦乱と子どもたち('95) 蒔絵~漆黒と黄金の日本美~('97) [生・老・死];日本人の人生観~内からの眼・外からの眼~('99) 年輪は歴史年表('99) 瀬戸内寂聴が語る 待賢門院と西行('01)
BSキャンパスex特集	考古・歴史・文化の今昔~蘇る「兼高がおる世界の旅」と共に~ メキシコ編 ①~④ 情報をデザインする~ミュージアムの役割と可能性~ 権利擁護と意思決定支援 第1回/第2回 現代の学校教育と教師 ~教科教育と学級経営編~/ ~課外活動と生徒指導編~ デジタルアーカイブから広がる近現代史 ~アジア歴史資料センターの挑戦~		放送大学アーカイブs・知の扉 危機の心理学(17)
数理・データサイエンス・AI 専門講座	企業経営における実際 第1回~第4回 心理学研究への応用 第1回~第9回 地理空間情報とデータサイエンス 第1回~第4回 リハビリテーション科学のDX 第1回~第3回 データ科学としての言語研究の可能性 コミュニケーション学への応用		
231オーディトリウム	~米欧映画黄金期への招待~「駅馬車」 ~米欧映画黄金期への招待~「怒りの葡萄」 ~米欧映画黄金期への招待~「第三の男」 ~米欧映画黄金期への招待~「河」		



### ▶BSキャンパスex特集 現代の学校教育と教師(全2回)

いま日本の教育は大きく変わろうとしている。中央教育審議会が打ち出した「令和の日本型学校教育」では、児童・生徒がより主体的、協働的に探究的な学びを進めることがうたわれている。2回シリーズで教育現場の変化と求められる教師像を考える。



### ▶数理・データサイエンス・AI 専門講座 心理学研究への応用(全9回)

データサイエンスに関連した仕事に従事しようとしている学生やすでに業務としている技術者に、有益な知識を提供する専門レベルの講義。今回のシリーズでは、数理・データサイエンス・AIの心理学研究への応用を扱う。認知心理学、社会心理学、臨床心理学の各専門領域から、データサイエンスの活用事例を丁寧に紹介する。

## キャリアアップ支援認証制度

本学が開設する公開講座等により体系的に編成された講習を修了した方に対して独自の認証状を発行する「キャリアアップ支援認証制度」を実施している。本制度は、様々なニーズに応え受講者のキャリアアップに資する講座を柔軟な仕組みで提供するものであり、本学学生でなくても受講できる。また、修了者には、認証状の他、デジタルバッジを発行する。2023年度に

は、国際協力機構(JICA)との連携による「JICA開発大学院連携プログラム」に新たな講座を追加したほか、文部科学省の「新たな教師の学び」に対応したオンライン研修コンテンツ開発事業に申請し採択されたことを受け、「教育課題に取り組むためのリスクリング講座」を開講した。

## インターネット配信公開講座

本学のキャリアアップ支援認証制度に対応した有料講座及び生涯学習支援番組の一部を無料講座としてインターネットで配信する「インターネット配信公開講座」を2020年に開始した。2023年度においては有料講座102講座、無料講座82講座を配信した。



## 単位互換の取り組み

本学は、「他大学との単位互換の推進により、わが国の大学教育の改善に資すること」を設置目的の一つに掲げている。本学と単位互換協定を締結している大学及び短期大学は414大学あり、日本国内の全大学・短期大学の約37%にのぼる。さらに15大学院、17校の高等専門学校とも単位互換協定を締結しており(2024年3月31日現在)、大学等から受け入れる学生数は年間で約4,500名(延べ約7,000科目)に達する。

を行うことも必要」と記載されたことを受け、国から単位互換制度の運用に係る基本的な考え方が示された。本学では、基本的な考え方に則り単位互換を推進することによって、多様で柔軟な教育プログラムの編成(文理横断・学修の幅を広げる教育等)や大学の多様な「強み」の強化など、わが国の大学等の教育課程の充実に寄与している。

2023年度には、新たに3校の大学等と単位互換協定を締結し、協定締結校は合計446校となった。

2023年度に締結した単位互換協定締結校	
聖隷クリストファー大学大学院	東都大学
日本獣医生命科学大学	

## 専修学校との連携協力

本学では、専修学校との連携協力として、専修学校に在学しながら本学にも入学し、本学の科目を併修する制度を実施している。時間と場所を問わずに学ぶことのできる本学の特徴を活かし、専修学校での学習と組み合わせて学べ、本学卒業により学士(教養)の学位を取得することが可能である。

2023年度には、新たに4校の専修学校と連携協力の覚書を締結し、連携協力校は合計64校となった。

2023年度に締結した連携協力校(専修学校)	
浜松工科大学自動車大学校	沖縄リハビリテーション福祉学院
獨協医科大学附属看護専門学校 三郷校	沖縄看護専門学校

## 特別講義

特別講義では、各学問分野の第一人者が、その専門分野について深く掘り下げた講義を行っており、テレビ特別講義は生涯学習支援番組のシリーズの1つとして放送している。

2023年度放送の特別講義		
講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書	メディア
『おくのほそ道』の真髄 ～芭蕉自筆本に基づく新研究～	放送大学特任教授 魚住 孝至	テレビ
笑いの哲学 ～コントで分析～	日本笑い学会会長、関西大学人間健康学部教授 森下 伸也	テレビ
年縞が語る地球環境史	国際日本文化研究センター名誉教授・ふじのくに地球環境史ミュージアム館長 安田 喜憲	テレビ
第九を楽しむ 放送大学・ベートーヴェン交響曲第九演奏会～東京藝術大学奏楽堂～	千葉大学教授・作曲家 山本 純ノ介 横浜国立大学名誉教授 茂木 一衛	テレビ
共に生きる社会を目指して ～「医療的ケア児」をどう支えるのか～	ひばりクリニック院長・NPO法人うりずん理事長 高橋 昭彦	テレビ
気仙沼ESDの軌跡:持続可能な社会の創造をめざして 摩擦の世界	奈良教育大学准教授 及川 幸彦 青山学院大学教授 松川 宏 筑波大学准教授 氏家 恒太郎 東京大学生産技術研究所教授 川勝 英樹	テレビ
ブラックホール ～ばく大なエネルギーの発生源～	東京大学教授 牧島 一夫 東京大学特別栄誉教授 梶田 隆章 放送大学茨城学習センター元所長 横沢 正芳	テレビ
エンジニアが映像で挑む!～トップアスリート強化～	国立スポーツ科学センタースポーツ科学研究部 専門研究員 三浦 智和	テレビ
微生物が作る究極の薬を求めて 大村智博士が語るノーベル賞への歩み	北里大学特別栄誉教授 大村 智 女優、科学番組プログラム アシスタント 黒田 有彩	テレビ
分子の履歴を読み解く ～地球環境の指標・アイソトポマー～	東京工業大学地球生命研究所 特任教授 吉田 尚弘 フリーアナウンサー 岩田 まこ都	テレビ
身心一体科学からの健康寿命延伸 ～日本文化を先端科学につなぐ～	東京大学名誉教授 跡見 順子 能楽師 森 常好 フリーアナウンサー 高松 祥子	テレビ
手本をはなれて ～"想画"を生んだ奥出雲の地から～	前島根学習センター所長 佐々 有生 農業 青木 宗一 声優、ナレーター 加藤 沙織 声優 宮林 康 声優 青木 強	テレビ
レグgett教授が見た日本 ～ノーベル賞科学者による異文化交流～	イリノイ大学名誉教授 アンソニー・レグgett 放送大学特任教授 松井 哲男 京都大学名誉教授 佐藤 文隆 前東京大学教授 福山 寛 アナウンサー 青谷 優子	テレビ
通信教育で人生が変わった ～女優・作家 中江有里～	女優・作家 中江 有里	ラジオ
箏曲の世界 ～宮城道雄の残したもの～	元東京芸術大学教授・学術博士 安藤 政輝	ラジオ
編集者漱石 ①編集者子規	大阪芸術大学教授 長谷川 郁夫 東京大学名誉教授 草光 俊雄	ラジオ
編集者漱石 ②朝日新聞の時代	大阪芸術大学教授 長谷川 郁夫 東京大学名誉教授 草光 俊雄	ラジオ
研究不正と研究倫理	放送大学特任教授 児玉 晴男	ラジオ
DV被害者の声～求められる支援のありかたとは～	愛知県立大学名誉教授 須藤 八千代	ラジオ
病・人・社会(1)～統合失調症が教えること～	東洋大学名誉教授 白石 弘巳	ラジオ
病・人・社会(2)～人を支援する人が受け取るもの～	東洋大学名誉教授 白石 弘巳	ラジオ
困ったら、頼っていいんだよ ～孤立する子どもたちに私たちができること～	NPO法人3keys代表理事 森山 誉恵	ラジオ
医療・健康で地域をつなぐ	帝京大学教授 佐藤 真治	ラジオ
現代社会におけるイノベーションの意味	元早稲田大学大学院教授 吉川 智教	ラジオ
終活学 満足して人生を終える	関西国際大学客員教授 長尾 和宏	ラジオ

2023年度放送の特別講義

講義題目名	出演講師 *開設当時の肩書	メディア
江戸農書からみる現代農業と日本社会	大阪経済大学学長 徳永 光俊	ラジオ
科学は文化だ -科学技術週間60年の変遷にみる日本の科学と社会-	日本科学未来館 広報・普及課長 富田 知宏 放送大学教授 奈良 由美子 文部科学省人材政策課課長補佐 石橋 一郎	ラジオ
天文学を魅力的に伝えたい	国立天文台准教授 縣 秀彦	ラジオ
ヒューマンインタフェース技術のタネは日常生活のなかにある	放送大学名誉教授 黒須 正明	ラジオ
食の安全と環境汚染物質～メチル水銀を例に～	内閣府食品安全委員会委員長 佐藤 洋	ラジオ
脳と心—分子生物学者がみた精神医学— ①部品の科学と全体としての脳	東京都医学総合研究所 病院等連携研究センター長 糸川 昌成	ラジオ
脳と心—分子生物学者がみた精神医学— ②家族の旅から回復を体験すること	東京都医学総合研究所 病院等連携研究センター長 糸川 昌成	ラジオ
健康社会学的「働き方改革」のすすめ	健康社会学者・文藝家 河合 薫 ラッシュジャパン人事部長 安田 雅彦	ラジオ
脳脊髄液減少症と児童・生徒 「俯瞰科学」で分析 今後100年の人類社会	国際医療福祉大学熱海病院教授 篠永 正道 東京工業大学地球生命研究所 特命教授 丸山 茂徳 放送大学プロデューサー 高比良 一道	ラジオ

一般向け講演会

本学で培われた教育・研究成果が広く社会に提供されることで、大学と社会相互のさらなる発展が期待される。本学は、主に全国の学習センターを通じて、一般市民を対象とした公開講演会等を開催し、その知識を社会に還元している。以下にその活動の一部を紹介する。

2023年度公開講演会

所属	講師	テーマ	主催	共催等	方式	開催年月日
生活と福祉	石丸 昌彦	こころの健康を支えるもの ～メンタルヘルスの4つの柱	新潟SC	放送大学新潟同窓会	対面	2023年10月8日
	川原 靖弘	サステナブル社会で人間の行動情報を活用するためには	高知SC		対面	2023年6月24日
	山内 豊明	医療者がアタマの中で進めていること～臨床推論・アセスメント～	東京渋谷SC/目黒区		対面とWebの併用	2023年10月29日
心理と教育	岩崎 久美子	地域の生活に根ざす学びの可能性	島根SC	島根県教育委員会	対面とWebの併用	2023年6月24日
	岩永 雅也	ポストコロナ・AI時代の生涯学習～変わる形・変わらない思い～	東京足立SC	足立区生涯学習センター	対面	2023年9月2日
		ポストコロナ・AI時代の生涯学習～変わる形・変わらない思い～	兵庫SC		対面	2023年9月9日
		ウェルビーイングのための生涯学習のすすめ	岩手SC		対面	2023年11月23日
	ポストコロナ・AI時代の生涯学習～変わる形・変わらない思い～	京都SC		対面	2024年2月18日	
	森 津太子	認知バイアス ～だれもが持っている思考のくせ～	石川SC/広報課		対面とWebの併用	2023年7月15日
		認知バイアスを知っていますか	岐阜SC		対面	2023年10月8日
人間と文化	青山 昌文	芸術・日本・ヨーロッパ	青森SC		対面	2023年8月26日
		芸術・日本・ヨーロッパ	青森SC		対面	2023年8月27日
	大橋 理枝	体も口ほどにものをいう:非言語コミュニケーションのあれこれ	香川SC	放送大学香川ほうゆう同窓会	対面	2023年10月8日
		多文化共生のコミュニケーション	東京文京SC/広報課		対面とWebの併用	2024年2月3日
		体も口ほどにものをいう	静岡SC		対面とWebの併用	2024年2月18日
	河原 温	《色》の社会史-《色》から見る中世ヨーロッパ世界-	茨城SC	茨城県立図書館	対面	2023年9月16日
	近藤 成一	善通寺の中世	香川SC		対面	2023年9月9日
	杉森 哲也	津田梅子の生涯とその時代～新五千円券発行を機に考える～	東京文京SC/広報課		対面とWebの併用	2023年6月18日
人間と文化	宮本 陽一郎	「戦争記録画の失われた歴史を求めて」(午前の部)	兵庫SC/コミスタこうべ		対面	2023年11月24日
		「戦争記録画の失われた歴史を求めて」(午後の部)	兵庫SC/コミスタこうべ		対面	2023年11月24日
情報	辰己 丈夫	Pythonでプログラミングの考え方を身に付ける	東京渋谷SC/広報課		対面とWebの併用	2024年1月27日
	山田 恒夫	ポストコロナの国際ボランティア:サイバーボランティア活動の意義と可能性	東京文京SC/広報課		対面とWebの併用	2024年2月17日
自然と環境	大森 聡一	ダイナミックな地球～地球と宇宙と私たち～	佐賀SC (公財)佐賀県女性生涯学習財団,佐賀県立図書館		対面	2023年12月9日
	二河 成男	DNAに記されたヒトと生物の共存の歴史	東京文京SC/広報課		対面とWebの併用	2023年8月19日
北海道SC	山田 義裕	ポストコロナ時代における「他者との出会い」-モビリティーズ研究の観点から	北海道SC		対面とWebの併用	2023年9月2日
		観光研究から「平和」を考える-ピースツーリズム研究の試み	北海道SC 帯広市教育委員会		対面	2024年3月2日

2023年度公開講演会

所属	講師	テーマ	主催	共催等	方式	開催年月日
茨城SC	小野寺 淳	日本図の夜明けー長久保赤水と伊能忠敬ー	茨城SC	茨城県立図書館	対面	2023年4月15日
		ライデン大学図書館シーボルトコレクションの紹介	茨城SC	茨城県立図書館	対面	2023年9月2日
		城下町水戸の魅力	茨城学友同窓会		対面とWebの併用	2023年9月17日
東京渋谷SC	山室 恭子	家康の決断①関ヶ原	東京渋谷SC/品川区		Web	2023年6月10日
福井SC	小野田 信春	人生100年時代の「まなび」によるまちづくり・人づくりシンポジウム	敦賀市 福井大学教育学部・嶺南地域共創センター	福井SC・丸善雄松堂(株)	対面	2024年3月20日
長野SC	大塚 勉	鑑定します,その気になる石や化石～石が語る地球の物語～	長野SC/諏訪市教育委員会		対面	2023年11月3日
三重SC	梅川 逸人	未利用資源に含まれる機能性成分	三重県生涯SC		対面	2023年7月28日
兵庫SC	岡田 修一	「Well-beingと転倒予防」	兵庫SC	兵庫学友同窓会	対面とWebの併用	2023年11月11日
鳥取SC	田中 久隆	鉄は千年もつか? (薬師寺西塔の再建)	鳥取SC		対面	2023年9月17日
		1300年の風雨=法隆寺五重塔と薬師寺西塔	鳥取SC		対面	2024年2月4日
島根SC	出口 顕	「読むことと書くことの比較文化論」	島根SC	出雲市教育委員会	対面	2023年12月24日
山口SC	杉浦 崇夫	ロコモ予防の運動	山口SC	周南市教育委員会	対面	2023年10月14日
愛媛SC	吉田 正広	四国遍路研究とかかわり続けたイギリス史-ウォルシingham巡礼と戦争墓巡礼-	愛媛SC		対面	2023年7月29日
		四国遍路研究とかかわり続けたイギリス史(2)-カンタベリー巡礼と聖トマスのお宝-	愛媛SC		対面	2024年2月17日
長崎SC	山下 敬彦	電気と社会	長崎SC		対面とWebの併用	2024年2月17日
熊本SC	谷 時雄	お酒造りの酵母遺伝学世界初の分裂酵母焼酎を熊本から創り出す!	熊本SC		対面	2023年4月9日
大分SC	古城 和敬	ほめない、叱らない、勇気づけのコミュニケーション	宇佐市社会福祉協議会安心院支所	大分SC	対面	2023年11月17日
宮崎SC	松下 洋一	脱炭素化を目指す日本のエネルギー選択を考える	宮崎SC		対面	2024年2月25日
鹿児島SC	高津 孝	博物学者・島津重豪	鹿児島SC		対面	2023年8月27日
		唐詩へのいざない～戦争と詩歌・杜甫・春望～	鹿児島SC 鹿児島県立奄美図書館		対面	2023年11月26日

オープンコースウェア(OCW)

OCWは「大学等で正規に提供された講義とその関連情報をインターネット上で無償公開する活動」であり、1999年米国マサチューセッツ工科大学(MIT)から始まったものである。学びたい人すべてがいつでも学べる「開かれた大学教育」を目指して設置された本学は、OCWの理念に賛同し、2010年にインター

ネットによる配信を開始した。現在、本学で開講する放送授業(テレビ及びラジオ)のほとんどの科目(全15回番組)において、1番組または全15番組を本学学生以外の方にもインターネットにて公開している。また、一部の特別講義も公開している。

2023年度オープンコースウェア科目(全15回分を公開)

テレビ授業科目		テレビ授業科目	
科目名	講師	科目名	講師
ドイツ語Ⅰ('23)	井出 万秀	地域コミュニティと教育('18)	玉井 康之/夏秋 英房
中国語Ⅰ('23)	宮本 徹	ファイナンス入門('23)	齋藤 正章/阿部 圭司
情報学へのとびら('22)	加藤 浩/大西 仁	現代の内部監査('22)	齋藤 正章/蟹江 章
日本語リテラシー('21)	滝浦 真人	サプライチェーン・マネジメント('21)	松井 美樹
遠隔学習のためのパソコン活用('21)	秋光 淳生/三輪 眞木子	新時代の組織経営と働き方('20)	原田 順子/若林 直樹
英語で「道」を語る('21)	大橋 理枝/斎藤 兆史	エネルギーと社会('19)	迫田 章義/堤 敦司
地域・在宅看護論('23)	永田 智子/小野 若菜子	地球温暖化と社会イノベーション('18)	六川 修一/向井 人史
人体の構造と機能('22)	坂井 建雄/岡田 隆夫	日本語学入門('20)	滝浦 真人
地域福祉の課題と展望('22)	斉藤 弥生/小松 理佐子	中国と東部ユーラシアの歴史('20)	佐川 英治/杉山 清彦
疾病の成立と回復促進('21)	岡田 忍/佐伯 由香	博物館情報・メディア論('18)	稲村 哲也/近藤 智嗣
子どもの人権をどうまもるのか('21)	山縣 文治	データベース('23)	辻 靖彦/芝崎 順司
コミュニティがつなぐ安全・安心('20)	林 春男	教育のためのICT活用('22)	中川 一史/苑 復傑
災害看護学・国際看護学('20)	神崎 初美/西上 あゆみ	情報セキュリティ概論('22)	山田 恒夫/辰己 丈夫
レジリエンスの諸相('18)	奈良 由美子/稲村 哲也	身近なネットワークサービス('20)	葉田 善章
知覚・認知心理学('23)	石口 彰	Webのしくみと応用('19)	森本 容介/伊藤 一成
学習・言語心理学('21)	高橋 秀明	コンピュータとソフトウェア('18)	辰己 丈夫/中谷 多哉子
教育調査の基礎('20)	藤田 武志/西島 央	コンピュータの動作と管理('17)	葉田 善章
教育社会学概論('19)	岩永 雅也	初歩からの物理('22)	岸根 順一郎/松井 哲男

## 2023年度オープンコースウェア科目(全15回分を公開)

テレビ授業科目	
科目名	講師
入門微分積分('22)	石崎 克也
量子物理学('21)	松井 哲男/岸根 順一郎
場と時間空間の物理('20)	松井 哲男/岸根 順一郎
生命分子と細胞の科学('19)	二河 成男
宇宙の誕生と進化('19)	谷口 義明
太陽と太陽系の科学('18)	谷口 義明
初歩からの化学('18)	安池 智一/鈴木 啓介
物理の世界('17)	岸根 順一郎/松井 哲男
学校臨床心理学特論('21)	倉光 修

ラジオ授業科目	
科目名	講師
ドイツ語II('23)	井出 万秀
市民自治の知識と実践('21)	山岡 龍一/岡崎 晴輝
社会と産業の倫理('21)	松原 隆一郎/山岡 龍一
ビートルズ de 英文法('21)	佐藤 良明
貧困の諸相('23)	駒村 康平/渡辺 久里子
リスクコミュニケーションの探究('23)	奈良 由美子
社会福祉実践とは何か('22)	横山 登志子
睡眠と健康('21)	宮崎 総一郎/林 光緒
リスク社会の家族変動('20)	田間 泰子
ライフステージと社会保障('20)	丸谷 浩介
健康への力の探究('19)	戸ヶ里 泰典/中山 和弘
感染症と生体防御('18)	田城 孝雄/北村 聖
看護管理と医療安全('18)	大島 弓子/飯島 佐知子
教育の行政・政治・経営('23)	青木 栄一/川上 泰彦
現代教育入門('21)	岩永 雅也/岩崎 久美子
学校と法('20)	坂田 仰
思春期・青年期の心理臨床('19)	大山 泰宏
心理と教育へのいざない('18)	田中 統治/向田 久美子/佐藤 仁美
現代国際社会と有機農業('23)	中西 徹

## 2023年度インターネット無償公開特別講義

テレビ特別講義	
科目名	主な講師
手本をはなれて ～"想画"を生んだ奥出雲の地から～	佐々 有生/青木 定男
微生物が作る究極の薬を求めて 大村智博士が語るノーベル賞への歩み	大村 智
分子の履歴を読み解く ～地球環境の指標・アイトポマー～	吉田 尚弘
身心一体科学からの健康寿命延伸 ～日本文化を先端科学につなぐ～	跡見 順子
レゲット教授が見た日本 ～ノーベル賞科学者による異文化交流～	アンソニー・レゲット
「風狂を生きる精神 ～一休・蕭白からアラキーまで～」	林 浩平
摩擦の世界	松川 宏/氏家 恒太郎
『おくのほそ道』の真髓～芭蕉自筆本に基づく新研究～	魚住 孝至
笑いの哲学～コントで分析～	森下 信也
年縞が語る地球環境史	安田 喜憲
エンジニアが映像で挑む!～トップアスリート強化～	三浦 智和

ラジオ授業科目	
科目名	講師
政治学入門('22)	山岡 龍一/待鳥 聡史
NPO・NGOの世界('21)	大橋 正明/利根川 佳子
現代東アジアの政治と社会('20)	家近 亮子
環境問題のとらえ方と解決方法('17)	岡田 光正/藤江 幸一
哲学・思想を今考える('23)	魚住 孝至
樋口一葉の世界('23)	島内 裕子
西洋哲学の根源('22)	納富 信留
韓国朝鮮の歴史と文化('21)	須川 英徳/三ツ井 崇
日本の近世('20)	杉森 哲也
コミュニケーション学入門('19)	大橋 理枝/根橋 玲子
日本仏教を捉え直す('18)	末木 文美士/頼住 光子
自然言語処理('23)	黒橋 禎夫
AIシステムと人・社会との関係('20)	山口 高平/中谷 多哉子
現代を生きるための化学('22)	橋本 健朗
エントロピーからはじめる熱力学('20)	安池 智一/秋山 良
統計学('19)	藤井 良宜
線型代数学('17)	隈部 正博
解析入門('18)	河添 健
福祉政策と人権('22)	金川 めぐみ
ヘルスリサーチの方法論('19)	井上 洋士
生活リスクマネジメント('17)	奈良 由美子
成人の発達と学習('19)	岩崎 久美子
臨床心理学研究法特論('23)	石原 宏/川部 哲也
日本文化と思想の展開－内と外と('22)	魚住 孝至
朝鮮の歴史と社会－近世近代('20)	須川 英徳/三ツ井 崇
音楽・情報・脳('23)	仁科 エミ/河合 徳枝
コンピューティング('19)	萩谷 昌己
情報学の技術('18)	中谷 多哉子/辰己 丈夫
現代物理の展望('19)	岸根 順一郎/松井 哲男
計算論('16)	隈部 正博

ラジオ特別講義	
科目名	主な講師
健康社会学的「働き方改革」のすすめ	河合 薫
脳脊髄液減少症と児童・生徒	篠永 正道
「俯瞰科学」で分析 今後100年の人類社会	丸山 茂徳
研究不正と研究倫理	児玉 晴男
DV被害者の声～求められる支援のありかたとは～	須藤 八千代
科学は文化だ－科学技術週間60年の変遷にみる日本の科学と社会－	富田 知宏/奈良 由美子
通信教育で人生が変わった～女優・作家 中江有里～	中江 有里
病・人・社会(1)～統合失調症が教えること～	白石 弘巳
病・人・社会(2)～人を支援する人が受け取るもの～	白石 弘巳
天文学を魅力的に伝えたい	縣 秀彦
箏曲の世界 ～宮城道雄の残したもの～	安藤 政輝
困ったら頼っていいんだよ～孤立する子どもたちに私たちができること～	森山 誉恵
医療・健康で地域をつなぐ	佐藤 真治
現代社会におけるイノベーションの意味	吉川 智教
編集者漱石 ①編集者子規	長谷川 郁夫/草光 俊雄
編集者漱石 ②朝日新聞の時代	長谷川 郁夫/草光 俊雄
終活学 満足して人生を終える	長尾 和宏
江戸農書からみる現代農業と日本社会	徳永 光俊
ヒューマンインタフェース技術のタネは日常生活のなかにある	黒須 正明
食の安全と環境汚染物質～メチル水銀を例に～	佐藤 洋
脳と心-分子生物学者がみた精神医学-①部品の科学と全体としての脳	糸川 昌成
脳と心-分子生物学者がみた精神医学-②家族の旅から回復を体験すること	糸川 昌成

## Annual Review 2023

## 放送大学における研究

## 学習教育戦略研究所における研究

学習教育戦略研究所は、学習や教育、放送大学学園の経営について、教員と事務職員とが協働で課題解決に向けた活動を行う新しい形の研究組織として2018年度に設置された。本学園が保有する膨大な学習・教育情報の分析等を通じて、最先端のICT技術も含め、より効果的な学習・教育方法の調査・研究や、本学園の経営改善に資する各種情報の収集・分析、それら成果の活用等を行うことにより、変化する社会ニーズへ迅速に対応し、本学園や我が

国の高等教育の充実発展に寄与することを目的としている。(なお、2023年度末に、放送大学に設置している「オンライン教育センター」及び、学園に設置している「学習教育戦略研究所」を発展的に改組し、「次世代教育研究開発センター」を学園に設置することを決定した。)

2023年度には、教職員からの提案を受け、次の研究課題を実施した。

## 研究課題(2023年度実施採択順)

所属	職名	氏名	研究課題
	副学長	近藤 智嗣	学習教育戦略研究所におけるAIトランスフォーメーション研究の推進
心理と教育	教授	岩崎 久美子	放送大学教材を用いた高校生対象先取り学習(早期履修制度)の試行
自然と環境	教授	橋本 健朗	放送大学に相応しいリメディアル教育の実践的研究ーオンライン学習グループの試みー

## 放送大学研究年報

『放送大学研究年報』は本学の専任教員等が日頃の研究成果を公表する場である。2023年度版(第41号)は2024年3月に発行された。

## 2023年度放送大学研究年報(第41号)著者及び論題

著者	論題
石丸 昌彦	メンタルヘルスとスピリチュアリティに関わるいくつかの論題
石井 祥子、奈良 由美子、鈴木 康弘、稲村 哲也、スヘー・バトトルグ、スファートル・オトゴンツェツェグ、ビャンバジャブ・ナラマンダハ	モンゴルにおける防災啓発ー防災カルタ、市民主導防災ーおよび遠隔教育
橋本 鉦市	「教育産業」の経営方針とリスク認識ー有価証券報告書を対象としてー
橋本 朋広	The Psychological Meaning of Fire Symbols in Japanese Spring Festivals
森 津太子	「危機の心理学」の受講生はコロナ禍の危機をどう捉えたかー研究と教育の有機的なつながりー
佐藤 仁美	アウラ ～光と影～
広瀬 洋子	No One Left Behind - Reaching the Goal Support Systems for Students with Disabilities at The Open University of Japan.
葉田 善章	放送大学における教材・素材アーカイブシステムの検討
北原 知典	現代の心理療法における「コミットメント」をめぐる諸相ーオリジナルとテンプレートー
寺田 悠希、西村 幸浩、鎌田 健太郎、橋本 鉦市	Twitterにおける放送大学の社会的イメージー放送大学関係者と非関係者との比較を通じてー
波田野 茂幸	放送大学における心理演習・心理実習の授業づくりの観点に向けた探索的検討
鶴見 英成、稲村 哲也、葉田 善章、五藤 素直	放送大学教員の共同研究による大学ミュージアム構想の検討と試行的展示公開
島内 裕子	『徒然草鉄槌』の注釈態度

## 外部資金による研究

本学では、専任教員等が数多くのテーマのもと積極的に研究を行い、その成果を世に送り出している。研究の支援・推進のために、放送大学教育振興会等他機関からの助成基金を積極的に得て研究を進めている。2023年度に放送大学教育振興会・日本学術振興会等の助成で実施した研究テーマは以下の通りである。

### 放送大学教育振興会助成による研究：多様なメディアの研究開発、教材及びシステム等の研究開発（採択順）

所属	職名	氏名	研究課題名
心理と教育	教授	森 津太子	心理学実験実習に係るオンライン教材の研究開発
生活と福祉	教授	戸ヶ里 泰典	保健・看護系大学院生のための統計学習ウェブサイトの開発 - 多変量解析法を中心に -

### 放送大学教育振興会助成による研究：教材の海外への普及・協力事業、国際交流の促進事業

所属	職名	氏名	研究課題名
心理と教育	教授	岩崎 久美子	ポートランド州立大学との社会人継続教育の連携・協働に関する協力事業：フィジビリティ・スタディ

### 放送大学教育振興会助成による研究：機関特別推進研究等に係る助成

所属	職名	氏名	研究課題名
	副学長	近藤 智嗣	高等学校との連携協力推進事業
	副学長	近藤 智嗣	学習教育戦略研究所におけるAIトランスフォーメーション研究の推進

### 日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究（氏名は代表者）（研究種目・研究終了予定日順）

所属	職名	代表者氏名	研究種目	研究課題名
生活と福祉	教授	山内 豊明	基盤研究(B)	看護臨床アセスメントモデル構築と人工知能による深層学習に向けた学際的探索研究
生活と福祉	教授	川島 聡	基盤研究(B)	障害者就労制度の日独英比較——法学と経済学の学際的アプローチ
情報	教授	山田 恒夫	基盤研究(B)	公正で個別最適化された生涯学習を実現するデジタル・エコシステムの研究
心理と教育	教授	橋本 鉦市	基盤研究(B)	教育機関と産業界・地域・市民社会を架橋する境界領域(EBF)に関する実証的研究
自然と環境	教授	岸根 順一郎	基盤研究(B)	カイラリティが誘導するフォノン・スピン・フォトン交差結合の理論
	客員教授	稲村 哲也	基盤研究(B)	山岳高所における環境・動物・人の相互作用のダイナミズム—中央アンデスを中心に
京都SC	特任教授	玉田 芳史	基盤研究(B)	脱民主化の政治：アジア地域研究からの接近
情報	教授	加藤 浩	基盤研究(B)	遠隔教育における学習者の表出の機能解明と表出促進システムによる学習改善の研究
千葉SC	特任教授	片岡 洋子	基盤研究(C)	現代中等教育におけるフレネ教育の研究
茨城SC	特任教授	小野寺 淳	基盤研究(C)	19世紀における地図製作者の系譜と作図法の継承・革新
山梨SC	特任教授	村松 俊夫	基盤研究(C)	附属学校との連携による触知型教育遊具の効果検証とそのアーカイブ化
長崎SC	特任教授	山下 敬彦	基盤研究(C)	汚損湿潤がいし表面における放電の進展を考慮した動的放電モデルの開発
情報	教授	中谷 多哉子	基盤研究(C)	概念モデルに基づくアクターのアクセス権限を考慮した要求獲得に関する研究
情報	教授	伏見 清香	基盤研究(C)	被災館支援システムによるミュージアムの情報と空間の関係性と相互作用に関する研究
	副学長	林 徹	基盤研究(C)	フォーリナー・トークから見るドイツのトルコ系移民コミュニティの言語的特徴
心理と教育	教授	岩崎 久美子	基盤研究(C)	新たな社会教育主事講習へのファシリテーション技法導入の有効性に関する基礎的研究
情報	准教授	平岡 斉士	基盤研究(C)	知的技能の問題作成と類題作成を支援するシステムの設計・開発
情報	准教授	辻 靖彦	基盤研究(C)	大学教員の大規模実態調査に基づくICT活用度診断モデル構築の実証的研究
心理と教育	教授	村松 健司	基盤研究(C)	社会的養護経験者に対する大学教育支援の基礎的研究
生活と福祉	准教授	川原 靖弘	基盤研究(C)	骨伝導を利用した超広帯域音響による深部脳賦活法の研究と実用検討
社会と産業	准教授	桑田 学	基盤研究(C)	人新世の思想史研究：19世紀中葉～両戦間期のエコノミーとエコロジーの概念史
愛知SC	特任教授	根本 二郎	基盤研究(C)	新しい生産性分析によるわが国電力自由化の定量的評価
奈良SC	特任教授	井上 容子	基盤研究(C)	生活シーンと視覚特性の加齢変化を考慮した一日を通じた照明の適正化手法の究明と提案

### 日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究（氏名は代表者）（研究種目・研究終了予定日順）

所属	職名	代表者氏名	研究種目	研究課題名
情報	准教授	葉田 善章	基盤研究(C)	生涯学習における履歴に基づく教育サービス改善を目的とした学習解析手法に関する研究
自然と環境	副学長	加藤 和弘	基盤研究(C)	緑地に隣接する建築物のありかたが鳥類による緑地の利用に及ぼす影響
北海道SC	特任教授	山田 義裕	基盤研究(C)	東アジアにおける拡張現実時代の平和と観光に関する研究
情報	教授	森本 容介	基盤研究(C)	xAPIによる学習履歴データの記述とその利活用に関する研究
社会と産業	教授	玉野 和志	基盤研究(C)	メッシュデータによる都市地域(mdbUA2010)の変容に関する研究
秋田SC	特任教授	倉林 徹	基盤研究(C)	繊維種テラヘルツスペクトルの定量分析法と繊維中の欠陥評価に関する研究
新潟SC	特任教授	大原 謙一	基盤研究(C)	Hilbert-Huang変換を用いた重力波の非モデル化探索
心理と教育	教授	苑 復傑	基盤研究(C)	脱グローバル化局面における中国の高等教育—政策転換の構造と大学の葛藤—
情報	准教授	辻 靖彦	基盤研究(C)	教員と学生の大規模実態調査に基づくブレンド型授業の質保証のためのガイドライン策定
情報	准教授	平岡 斉士	基盤研究(C)	行動変容をうながす漫画教材とノベルゲーム教材のストーリー作成支援ツールの開発
心理と教育	教授	進藤 聡彦	基盤研究(C)	社会科における知識の構造化を促進する教授方略としての知識操作
自然と環境	教授	石崎 克也	基盤研究(C)	差分方程式の解の与える微分超越性への影響について
徳島SC	特任教授	橋爪 正樹	基盤研究(C)	ダイ間配線の出荷後電気検査をも可能にする組込み型検査回路に関する研究
情報	教授	浅井 紀久夫	基盤研究(C)	技能伝承のための分散協調訓練での人間拡張による触力感覚を伴った手指動作の再現
情報	教授	仁科 エミ	基盤研究(C)	オンライン学習における生理的負荷の計測と背景音環境造成効果の検証
事務職員	係長	寺田 悠希	奨励研究	大都市にとっての大学とは何か：シリアスゲーム制作ワークショップを通じた分析
心理と教育	准教授	櫻井 直輝	若手研究	市町村教育予算の規定要因として地方交付税制度に関する研究
社会と産業	准教授	白鳥 潤一郎	若手研究	先進国間協調体制の形成と変容：主要国首脳会議における日本外交、1975-1983
臨床心理学P	教授	丸山 広人	若手研究	インシデントプロセス法を活用した納得感に焦点づけた説得的面接法の開発
人間と文化	准教授	鶴見 英成	新学術領域研究(研究領域提案型)	人工的環境の構築と時空間認知の発達
心理と教育	教授	橋本 鉦市	挑戦的研究(萌芽)	高度情報化時代における高等教育政策の形成プロセスとメカニズム
生活と福祉	教授	奈良 由美子	挑戦的研究(萌芽)	政治家に必要な科学リテラシー・コミュニケーション能力の同定とその開発支援ツール
	客員教授	稲村 哲也	挑戦的研究(開拓)	遊牧・山岳・先住民地域におけるリモート教育のモデル構築に関する実践的研究
特別研究員	特別研究員	竹重 志織	特別研究員奨励費	都市における水鳥の移動経路として河川が備えるべき条件の解明

## その他外部資金助成による研究（本学の教員が代表のもののみ）

### その他外部資金助成による研究（本学の教員が代表のもののみ）

所属	職名	氏名	助成元	資金名・事業名等	研究課題名
生活と福祉	教授	井出 訓	公益財団法人 北野生涯教育振興会	生涯教育研究助成金	認知症介護家族の心理的成長を促す継続的教育プログラムの開発に向けた基礎的研究
心理と教育	教授	村松 健司	公益財団法人 三菱財団	三菱財団自然科学 研究助成	児童養護施設におけるスタッフの 離職要因の分析

## 研究成果の発表・普及【書籍等出版物】

本学の専任教員・学習センター所長は、研究の成果を発表し共有・普及する 纂を行っている。これらの書籍は、より専門的かつ先進的な内容を含んでお  
ために、印刷教材以外にも、多数の書籍編集・執筆、及び辞書・辞典などの編 り、各教員が日々取り組んでいる独自の研究テーマや研究活動の成果である。

## 2023年度研究成果の発表・普及【書籍等出版物】

所 属	氏 名	書籍名、辞書・辞典名、共著者	出版社	出版年月
生活と福祉	川島 聡	障害と人権の総合辞典 / 日本障害者協議会(JD)編 [[障害者権利条約](3-4頁)、[障害者権利条約の国際モニタリング(監視)](4-6頁)]	やどかり出版	2023年6月
		障害のある人が出会う人権問題 / 岡田順太, 淡路智典, 杉山有沙編 [川島聡, 分担執筆; 範囲; 国際人権法—障害者権利条約の実現(第13章)]	成文堂	2023年9月
		障害者権利条約の初回審査 / 長瀬修, 川島聡, 石川准編 [担当部分: 第2章 人権モデルと社会モデル]	法律文化社	2024年1月
		障害者の自立と制度 / 松井彰彦, 川島聡	放送大学教育振興会	2024年3月
	川原 靖弘	Utilization of Geospatial Information in Daily Life: Expression and Analysis of Dynamic Life Activity / Yoshihide Sekimoto, Yasuhiro Kawahara	Springer	2023年5月
	奈良 由美子	災害復興学事典(日本災害復興学会編) / 奈良由美子 [[レジリエンス概念の系譜] レジリエンスの科学 / 奈良由美子, 鈴木康弘]	朝倉書店 放送大学教育振興会	2023年9月 2024年3月
	山内 豊明	ベイツ診察法ポケットガイド第4版 Bates' Pocket Guide to Physical Examination and History Taking 9th Edition(訳書) / 山内豊明 [監修者序文]	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2023年4月
		ベイツ診察法ポケットガイド第4版 Bates' Pocket Guide to Physical Examination and History Taking 9th Edition(訳書) / リン・S.ピックリー, ピーター・G.シラギ, リチャードM.ホフマン, 日本語版監修, 有岡宏子, 井部俊子, 山内豊明	メディカル・サイエンス・インターナショナル	2023年4月
		緊急度を見抜く! バイタルサインからの臨床推論 / 山内豊明	医学書院	2023年6月
	心理と教育	岩崎 久美子	カタリン・カリコ物語 ゼったいにあきらめない mRNAワクチンの科学者 / 山内豊明(医学監修) デビー・ダディ(著), ジュリアナ・オーグリー(絵), 竹内薫(訳)	西村書店
ナーシング・サプライメージでできる解剖生理学第2版 5章 循環器系 / 山内豊明, 三笠里香			メディカ出版	2023年11月
橋本 鉦市		ファシリテーター・ハンドブック / イングリッド・ベンズ著 似内遼一監訳, 荻野亮吾, 岩崎久美子, 吉田敦也 [第5章, 第6章, 第7章, 第8章]	明石書店	2023年9月
		読書教育のすすめ—学校図書館と人間形成— / 立田慶裕編著 [[学校がすすめる読書活動](第7章)pp.96-111.]	学文社	2023年9月
橋本 朋広		[高等教育研究] 苑復傑・向田久美子・佐藤仁美編(新訂) 心理と教育へのいざない / 橋本鉦市	放送大学教育振興会	2024年3月
波田野 茂幸		心理と教育へのいざない [新訂] / 苑復傑, 向田久美子, 佐藤仁美	放送大学教育振興会	2024年3月
丸山 広人		心理と教育へのいざない [新訂] / 苑復傑, 向田久美子, 佐藤仁美 [第13章]	放送大学教育振興会	2024年3月
		新乳幼児発達心理学[第2版]—子どもがわかる好きになる(第1章発達のおくみ, 第8章 向社会的発達) / 石井正子, 向田久美子, 坂上裕子 [p.9~p.24, p.119~p.133]	福村出版	2023年4月
村松 健司		心理学検定 専門用語&人名辞典 / 一般社団法人日本心理学諸学会連合心理学検定局編 [臨床・障害領域]	実務教育出版	2023年6月
		続々 移行支援としての高校教育 / 小野善郎, 保坂 亨編著 [第5章 児童養護施設の高校生の大学教育支援]	福村出版	2023年7月
森 津太子	別冊 バイアスの心理学 (Newton別冊) / 池田まさみ, 森 津太子, 高比良, 美詠子, 宮本 康司	ニュートンプレス	2023年5月	
	心理学概論 / 森津太子, 向田久美子	放送大学教育振興会	2024年3月	
社会と産業	白鳥 潤一郎	超絵解本 だれもがもつ“考え方のくせ” バイアスの心理学 / 池田まさみ・森 津太子・高比良 美詠子・宮本 康司	ニュートンプレス	2024年3月
		[戦後日本]とは何だったのか——時期・境界・物語の政治経済史 / 松浦 正孝編 [第13章「戦後外交」の再検討][361-381頁]]	ミネルヴァ書房	2024年2月
	玉野 和志	新興アジアの政治と経済 / 高木 祐輔, 伊藤 亜聖編 [15 新興アジアの中の日本][214-229頁]]	放送大学教育振興会	2024年3月
		東南アジアにおける国家のリスキューリング: 都市研究と地域研究との対話 / 玉野和志, 船津鶴代, 齊藤麻人, 林真人, 長田紀之, 新井健一郎, 日下涉, 河野元子 (東南アジア地域研究), 三好友良, 岡本正明, 石塚二葉, OnphanhdalaPhanhpakit, KeolaSouknilanh	ミネルヴァ書房	2024年2月
	原 武史	都市と地域の社会学 / 北川由紀彦, 玉野和志	放送大学教育振興会	2024年3月
		「線」の思考	新潮文庫	2023年4月
	原田 順子	地形の思想史	角川新書	2023年5月
		歴史のダイヤグラム(2号車)	朝日新書	2023年5月
	松井 美樹	シリーズ 海とヒトの関係学⑥ 海のジェンダー平等へ(秋道智彌, 窪川かおる, 坂口秀編著) / 原田順子 [単独執筆: 第3章-10 男性中心から男女共同参画へ]	西日本出版社	2024年3月
		経営学入門 / 原田順子, 松井美樹 [単独執筆: 第2, 10, 11章 共同執筆: 第1章]	放送大学教育振興会	2024年3月
柳原 正治	経営学入門 / 原田順子, 松井美樹 [1章 経営とは 12章 オペレーションズ・マネジメント 13章 マーケティング・マネジメント 14章 サービス・マネジメント]	放送大学教育振興会	2024年3月	
	国際法先例資料集(3) 犯罪人引渡条約・条例	信山社	2023年8月	
山岡 龍一	リベラリズム—リベラルな平等主義を擁護して / 佐藤正志, 山岡龍一, 隠岐理貴, 石川涼子, 田中将人, 森達也 [第5・6章: 127~201頁, 訳者あとがき: 285~288頁]	新評論	2023年8月	

## 2023年度研究成果の発表・普及【書籍等出版物】

所 属	氏 名	書籍名、辞書・辞典名、共著者	出版社	出版年月	
人間と文化	河原 温	ファンタジー好きのための中世ヨーロッパへの誘い(TJMBOOK	宝島社	2023年8月	
	滝浦 真人	イン／ポライトネス —からまる善意と悪意— / 滝浦真人, 椎名美智 [序論「日本(語)でイン／ポライトネス研究が必要な理由[わけ]」(単著; pp. 1-26), Part2 イン／ポライトネスの宝庫・文学「意地を張りあう人びと—『明暗』におけるイン／ポライトネス—」(阿部公彦, 椎名美智との共著; pp. 165-196)]	ひつじ書房	2023年4月	
	野崎 敏	文庫で読む100年の文学 / 沼野充義, 松永美穂, 阿部公彦, 読売新聞社文化部 [「シュルレアリスム実践篇 アンドレ・ブルトン」[ナジャ]], 126 - 127頁]	中央公論新社	2023年5月	
		ミシェル・ウエルベック『滅ぼす』上・下 / 野崎敏, 齋藤可津子, 木内亮共訳 [担当: 上巻pp.7-218頁, 下巻pp.333-341(訳者解説)]	河出書房新社	2023年7月	
	宮本 徹	モアメド・ムブガル・サール「人類の深奥に秘められた記憶」 / 野崎敏訳	集英社	2023年10月	
	宮本 陽一郎	古漢字発展論(漢字文化研究叢書2) / 黄徳寛等著, 藪敏裕監訳 [pp.7-8; 530-640; 653-654]	樹立社	2023年5月	
情報	加藤 浩	日常のかたち: 美学・建築・文学・食 / 対馬美千子, 山口恵里子 [ノスタルジア----ジョン・チャーヴァー「泳ぐ人」における家庭と不在の詩学]	筑波大学出版会, 丸善出版(発売)	2023年4月	
	鈴木 一史	記号論理学 / 加藤浩, 辰己丈夫	放送大学教育振興会	2024年3月	
	鈴木 一史	データ構造の基礎 / 鈴木一史	放送大学教育振興会	2024年3月	
	葉田 善章	コンピュータ通信概論(改訂版) / 葉田善章	放送大学教育振興会	2024年3月	
	山田 恒夫	情報社会と国際ボランティア活動 / 山田 恒夫	放送大学教育振興会	2024年3月	
	自然と環境	石崎 克也	身近な統計('24) / 石崎 克也, 渡辺 美智子	放送大学教育振興会	2024年3月
		岸根 順一郎	熱力学 / 岸根順一郎	裳華房	2023年11月
	公認心理師教育推進室	桑原 知子	心理と教育へのいざない / 桑原知子 北原知典 伊藤匡 [第15章 心理学の資格]	放送大学教育振興会	2024年3月
		北原 知典	心理と教育へのいざない(新訂) / 苑 復傑, 向田 久美子, 佐藤 仁美 [第15章 心理学の資格 4. 公認心理師について]	放送大学教育振興会	2024年3月
	茨城SC	小野寺 淳	水戸の城下町MAP幕末版 / 小野寺淳	一般社団法人水戸観光コンベンション協会	2023年8月
京都SC	玉田 芳史	アジア人物史第11巻 世界戦争の惨禍を越えて / 玉田芳史 [[「ビブーン」]462-471頁]	集英社	2023年4月	
		岩波講座世界史23 冷戦と脱植民地化: 二〇世紀後半 / 芝崎祐典, 中野聡, 木畑洋一, 齋藤嘉臣, 小沢弘明, 松井康浩, 福田宏, 原山浩介, 高木祐輔, 丸川知雄, 藤永康政, 佐藤千登勢, 森本あんり, 星乃治彦, 真鍋祐子, 玉田芳史, 谷垣真理子, 武藤浩史 [[「開発独裁」]233-234頁]	岩波書店	2023年6月	
奈良SC	井上 容子	玉田芳史(タイ語, 退職記念論文集) / 玉田芳史 [タイ研究者になるまで(タイ語), 311-322頁]	教え子と友人たちによる自費出版	2023年11月	
		照明の基礎知識4: 視環境計画の要件(前編) / 井上容子	イプロス Tech Note 編集部	2023年6月	
島根SC	出口 顕	照明の基礎知識5: 視環境計画の要件(後編) / 井上容子	イプロス Tech Note 編集部	2023年7月	
		照明の基礎知識6: 照明計画 / 井上容子	イプロス Tech Note 編集部	2023年10月	
		声と文字の人類学	NHKブックス	2024年3月	

## 研究成果の発表・普及【論文】

本学の専任教員及び学習センター所長は、各分野・領域における 新たな発見を生み出している。2023年度に発表された学術研究論  
専門家であり、研究を通じて教育の原動力となる問題追究する力と 文のうち、審査を受け学術雑誌等で公開された論文を紹介する。

## 2023年度研究成果の発表・普及【論文】

所 属	氏 名	論文名、共著者	発表媒体等	発表(出版)年月
生活と福祉	朝倉 富子	Mastication stimuli regulate the heartbeat rate through rhythmic regulation by the hypothalamic-autonomic system; molecular and telemetric studies in weaning-stage rats (Seonmi Lee, Ryota Tochinai, Akihito Yasuoka, Toshitada Nagai, Yoshikazu Saito, Masayoshi Kuwahara, Keiko Abe, Tomiko Asakura)	Frontiers in Neuroscience	2023年9月
		Mouse TMC4 is involved in the detection of chloride taste of salts. (Masataka Narukawa, Aya Masago, Momo Murata, Yoshikazu Saito, Yoichi Kasahara, Keiko Abe, Tomiko Asakura)	Bioscience, biotechnology, and biochemistry	2023年11月
川島 聡		障害者権利委員会の条約解釈と新しい差別理論	障害法	2023年11月
		障害差別を超えて—欧州人権条約と日本国憲法における合理的配慮(RA)の可能性	近藤敦編, 新国際人権法講座第3巻(信山社)	2024年1月
川原 靖弘		国連の障害概念—佐藤久夫名誉教授の所論をめぐって	障害学の展開(障害学研究)	2024年3月
		合理的配慮と差別理論	社会学評論	2024年3月
関根 紀子		Relationship between Upper Body Mass and Trunk Segment Control for Stability during Single-Leg Standing (Tanaka Kazuya, Atomi Tomoaki, Kawahara Yasuhiro, Shimizu Miho, Atomi Yoriko)	Journal of International Exercise Sciences	2023年6月
		Augmented Visual Feedback for Complex Motor Skill Acquisition: A Demonstration with Healthy Young Adults (Wakako Miyamoto, Yasuhiro Kawahara, Satoshi Mori, Katsuyoshi Setsu, Fumitada Hattori)	Perceptual and Motor Skills	2023年12月
		Factors associated with return to play following conservative treatment for lumbar spondylolysis among young athletes: A retrospective case series using structural equation modeling (Masahiro Tsukada, Toshiro Takiuchi, Noriko Ichinoseki-Sekine)	Journal of Bodywork and Movement Therapies	2024年1月
		Effects of hindlimb unloading on the mevalonate and mechanistic target of rapamycin complex 1 signaling pathways in a fast-twitch muscle in rats. (Munehiro Uda, Toshinori Yoshihara, Noriko Ichinoseki-Sekine, Takeshi Baba)	Physiological reports	2024年3月

## 2023年度研究成果の発表・普及【論文】

所属	氏名	論文名、共著者	発表媒体等	発表(出版)年月
生活と福祉	奈良 由美子	リスクコミュニケーション—その基本および自然災害に関するコミュニケーションの要点—	消防防災の科学	2023年11月
		リスクコミュニケーションの意義と要点	治安フォーラム	2023年11月
		Risk communication on COVID-19 with the dialogue among the public: Sketching out the figures of the persons concerned(Yumiko Nara, Sumito Shirane, Keichiro Tahara)	Procedia Computer Science	2023年12月
		自然災害とリスクコミュニケーション	治安フォーラム	2024年1月
		大学の対面授業復帰と学生の不安——新型コロナ5類移行後のアンケート調査からみえるもの—— / 佐久間 泰司, 奈良由美子	歯科医学	2024年3月
	山内 豊明	Usefulness of an online learning program for new nursing faculty members (Nahoko Nakagawa, Toyooki Yamauchi)	Nagoya Journal of Medical Science	2023年5月
		Learner-Centeredness vs. Teacher-Centeredness: How Are They Different? (Fumiko Yoshida, Gary J. Conti, Toyooki Yamauchi, Misa Kawanishi)	Journal of Education and Learning	2023年6月
		救命救急士の聴診スキルの現状把握と呼吸音聴診シミュレータを使用した研修効果の検証 / 平岩竜之介, 山内豊明	日本臨床救急医療学会誌	2023年7月
		看護とは何か—医学との二項対立を超えて—	第27回日本看護管理学会学術集会抄録集	2023年8月
		ニューノーマルにおける技術教育(シミュレーション教育を中心に)	日本看護技術学会第21回学術集会講演抄録集 ニューノーマル時代と看護技術	2023年10月
	特集!実践にいきるフィジカルアセスメント フィジカルアセスメントの各論をどのように授業で展開するか 基本の考えと活用	看護教育	2023年12月	
	A Teaching Styles Typology of Practicing Teachers(Fumiko Yoshida, Gary J. Conti, Toyooki Yamauchi, Misa Kawanishi)	Journal of Education and Learning	2023年12月	
心理と教育	大山 泰宏	家族の幻想	臨床心理事例研究—京都大学心理教育相談室紀要	2023年10月
		「教育政策学」の課題と今後の方向性: 構造的トピックモデルを用いた検討	日本教育政策学会年報	2023年7月
	橋本 鉦市	「大学」は政治家にどう情報発信されてきたか—国会議員Twitter(X)のトピック分析— / 寺田悠希, 西村幸浩, 鎌田健太郎, 橋本鉦市	東京大学大学院教育学研究科紀要	2024年3月
		「CPD」研究についての探索的分析—関連論文の書誌情報を中心に—	東京大学大学院教育学研究科紀要	2024年3月
森 津太子	認知バイアス・アセスメント尺度(GBA-80)の開発: 80種類の代表的な認知バイアスを日常生活で経験する程度とWell-beingとの関連性についての検討 / 高比良 美詠子, 池田 まさみ, 森 津太子, 宮本 康司	立正大学心理学研究所紀要	2024年3月	
社会と産業	児玉 晴男	知的財産の帰属の合理的な関係(日本学術会議協力学術研究団体査読付き論文)	企業法学研究	2023年12月
		苦悩する「経済大国」——東京サミット(1979年)と日本外交	国際政治	2024年3月
	松井 美樹	Contribution of Information Sharing to Supply Chain Performance in Developing Country: Empirical Evidence from Manufacturing Plants in Vietnam(Anh C. Phan, Ha T. Nguyen, Hao A. Nguyen, Yoshiki Matsui)	Quality Innovation Prosperity	2023年7月
	李 鳴	ERPシステムを利用したMRP実装の教材開発—品目マスタ設定からMRPまで— / 古門麻貴, 佐藤亮, 松井美樹	経営情報学会2023年全国研究発表大会予稿集	2023年11月
人間と文化	大橋 理枝	労災認定の適応障害による自殺と生命保険の自殺免責	法学研究	2023年4月
		ChatGPTが提起する古くて新しい課題	日本コミュニケーション研究	2024年1月
	大村 敬一	本質主義の陥穽: フィールドワークと民族誌の功罪	『フィールドワークと民族誌』(大村敬一&中空萌編: 放送大学教育振興会)	2024年3月
		「人新世」時代のフィールドワークと民族誌	『フィールドワークと民族誌』(大村敬一&中空萌編: 放送大学教育振興会)	2024年3月
	近藤 成一	史料を読むということ	宮城歴史科学研究	2023年9月
		Rechtsstreit und Schriftlichkeit. Von der Klage bis zum Urteil(Shigekazu Kondo)	Detlev Taranczewski / Christian Werner (Hg.), Funktionale Differenzierung königlicher Herrschaft und die Bildung neuer Eliten im Japan des 12. bis 14. Jahrhunderts, V&R unipress, Bonn University Press bei V&R unipress 2023	2023年11月
		Königliche Herrschaft, Eliten im Japan des frühen Mittelalters. Politische Institutionen; die Funktion ihrer Urkunden(Shigekazu Kondo)	Detlev Taranczewski / Christian Werner (Hg.), Funktionale Differenzierung königlicher Herrschaft und die Bildung neuer Eliten im Japan des 12. bis 14. Jahrhunderts, V&R unipress, Bonn University Press bei V&R unipress 2023	2023年11月
		『承久記』と北陸道合戦	関幸彦編『軍記・歴史学ニ益アリ—軍記と史学の関係を探る』教育評論社	2024年2月
	杉森 哲也	近世京都における遊廓成立過程の再検討	塚田孝・吉田伸之・杉森哲也編『近世巨大都市・三都の複合構造とその世界的地位』	2024年1月
	滝浦 真人	A new trend in Chinese address and its theoretical implications: An argument from observations of bifocal strategies in recent chat commerce(Tingting Xiao, Masato Takiura)	East Asian Pragmatics	2023年9月
野崎 敬	大江健三郎と『美しい少年』——ジャン・コクトーのしるしのもとに	ユリイカ	2023年7月	
宮本 陽一郎	パンデミックとモダニティ——シンクレア・ルイスの『アロースミス』をめぐって	アメリカ文学評論	2023年10月	
情報	青木 久美子	ChatGPT in Education: A Comparative Study of Media Framing (and Public Perception) in Japan and Malaysia(Bradley C. Freeman, Kumiko Aoki)	The 7th International Conference on Education and Multimedia Technology (ICEMT 2023) Proceedings	2023年8月
		An In-Depth Review of ChatGPT's Pros and Cons for Learning and Teaching in Education (Agariadne Dwinggo Samala, Xiaoming Zhai, Kumiko Aoki, Ljubisa Bojic, Simona Zikic)	International Journal of Interactive Mobile Technologies (IJIM)	2024年1月
	加藤 浩	Investigation of the Effect of Students' Nodding on Their Arousal Levels in On-Demand Lectures (Kotaro Sumida, Ayumi Ohnishi, Tsutomu Terada, Hiroshi Kato, Hideaki Kuzuoka, Yoshihiko Kubota, Hideyuki Suzuki)	Sensors	2023年4月
		授業中の表出と集中度に基づく対面授業と遠隔リアルタイム授業の比較調査 / 角田幸太郎, 大西鮎美, 寺田努, 加藤浩, 葛岡英明, 久保田善彦, 鈴木栄幸, 塚本昌彦	情報処理学会論文誌	2023年4月
		タンブル人形劇によるマイクロリーディングの変化—Epistemic Network Analysisによる分析— / 藤本 健弘, 佐々木 博史, 平山 涼也, 望月 俊男, Eagan Brendan, 結城 菜穂, 舟生 日出男, 久保田 善彦, 鈴木 栄幸, 加藤 浩	日本教育工学会論文誌	2023年6月
	辻 靖彦	大学の授業における ICT 利用に対する信念とオンライン授業実施意欲に影響する要因の検討 / 田口真奈, 稲葉利江子, 高比良美詠子, 辻 靖彦	日本教育工学会論文誌	2023年12月

## 2023年度研究成果の発表・普及【論文】

所属	氏名	論文名、共著者	発表媒体等	発表(出版)年月	
情報	中谷 多哉子	繰り返し型開発のための要求工学プロセス: 鳴門モデルの提案 / 中谷 多哉子, 大西 淳, 佐伯 元司	信学技報	2023年7月	
		移動エージェントを用いた警備ロボット制御システム / 箕輪 知也, 中谷 多哉子, 滝本 宗宏, 神林 靖	ソフトウェア工学の基礎ワークショップ in 伊勢志摩 論文誌	2023年11月	
		深層学習を用いたプログラムの不具合を推論する精度を向上させるための研究 / 小川 一彦, 中谷多哉子	信学技法	2023年11月	
		方程式の再帰構造に着目した数値解析モデルの再利用性向上のためのパターンの提案 / 市村 純一, 中谷多哉子	信学技法	2023年11月	
		遺伝的プログラミングとエージェントベースモデルを用いたOSS開発プロジェクトの性質理解 / 杉山 透, 中谷 多哉子	信学技報	2023年11月	
		ゴール指向分析を用いた数値解析モデル作成支援に関する分析 / 市村 純一, 中谷 多哉子	信学技報	2024年3月	
		OSS進化分析のためのWBICを用いたコミット履歴データのベイズ統計解析 / 杉山 透, 中谷 多哉子	信学技報	2024年3月	
		画像を用いたプログラムの不具合を学習させるための学習データ作成支援ツール / 小川 一彦, 中谷 多哉子	信学技報	2024年3月	
		柳沼 良知	Detection and Clustering of Ending Parts of Novels / M. Furukawa, Y. Yaginuma	14th IIAI International Congress on Advanced Applied Informatics (IAI-AAI), pp. 738-739	2023年7月
		山田 恒夫	教育デジタルトランスフォーメーション(DX)とデジタルエコシステム: 国際技術標準, 相互運用性, 教育IoT.	情報処理	2023年4月
	教育デジタルエコシステムにおける学習目標や評価に関する情報の役割	工学教育	2023年7月		
自然と環境	加藤 和弘	Can rivers be important movement corridor for waterbirds in urban areas?(Shiori Takeshige, Kazuhiro Katoh)	Landscape and Ecological Engineering	2023年4月	
		Magnetic phase diagram of Cr1/3Nb5S2: SANS study(A. A. Bykov, N. M. Chubova, E. V. Altinbaev, Yu Kousaka, A. S. Ovchinnikov, J. Kishine, S. V. Grigoriev)	Journal of Solid State Chemistry	2023年6月	
		Note on Angular Momentum of Phonons in Chiral Crystals(Akihito Kato, Jun Ichiro Kishine)	Journal of the Physical Society of Japan	2023年6月	
		Generalized Dzyaloshinskii-Moriya Interaction and Chirality-Induced Phenomena in Chiral Crystals(Yoshihiko Togawa, Alexander S. Ovchinnikov, Jun-ichiro Kishine)	JOURNAL OF THE PHYSICAL SOCIETY OF JAPAN	2023年8月	
	Rotational symmetry breaking of nuclear motion in the Jahn-Teller X3 molecule due to Casimir-Polder interaction(A. D. Lyakhov, A. S. Ovchinnikov, I. G. Bostrom, J. Kishine)	Physical Review B	2023年9月		
安池 智一	Photodestruction Action Spectroscopy of Silver Cluster Anions, Ag <sub>N</sub> <sup>-</sup> (N= 3-19), with a Linear Ion Trap: Observation of Bound Excited States above the Photodetachment Threshold(Shun Kawamura, Masato Yamaguchi, Satoshi Kono, Masashi Arakawa, Tomokazu Yasuie, Takuya Horio, Akira Terasaki)	Journal of Physical Chemistry A	2023年7月		
	Open-boundary cluster model with a parameter-free complex absorbing potential(Kosuke Imamura, Tomokazu Yasuie, Hirofumi Sato)	Journal of Chemical Physics	2024年1月		
公認心理師教育推進室	桑原 知子	【特集 令和型の不登校にどう向き合うか】今, 私たちは不登校にどう向き合うのか 「事例研究」というアプローチの独自性	シンリンラボ <a href="https://shinrinlab.com/feature003_04/">https://shinrinlab.com/feature003_04/</a> 臨床心理事例研究 京都大学教育学研究科 心理教育相談室紀要	2023年6月 2023年11月	
群馬SC	工藤 貴子	Ten-Membered Cyclohexatetraene Derivatives Including Two Gallium Atoms: Experimental and Theoretical Studies on Synthesis, Structures, and Their Transformations to Nine- and Five-Membered Gallacycles(Takako Muraoka, Kenta Fujiwara, Hyuga Furukawa, Masayoshi Ikeda, Kanako Kobayashi, Takako Kudo, Keiji Ueno, Yusuke Sunada, Hikaru Takaya, Yuka Ikemoto, Taro Moriwaki)	Organometallics	2023年5月	
新潟SC	大原 謙一	Open Data from the Third Observing Run of LIGO, Virgo, KAGRA, and GEO(R. Abbott, H. et al.)	The Astrophysical Journal Supplement Series	2023年7月	
		Precise analysis of gravitational waves from binary neutron star coalescence using Hilbert-Huang transform based on Akima spline interpolation(Itzuki Yoda et al.)	Progress of Theoretical and Experimental Physics	2023年8月	
		Overview of KAGRA: Data transfer and management(T. Akutsu et al.)	Progress of Theoretical and Experimental Physics	2023年9月	
	A Joint Fermi-GBM and Swift-BAT Analysis of Gravitational-wave Candidates from the Third Gravitational-wave Observing Run(C. Fletcher et al.)	The Astrophysical Journal	2024年3月		
石川SC	千木 昌人	Synthesis of pyrenocycloalkenes by using [2 + 2] photocycloaddition to pyrene and Diels-Alder reaction(Hajime Maeda, Masashi Maeda, Masahito Segi)	Journal of Photochemistry and Photobiology	2024年2月	
三重SC	梅川 逸人	Cholesterol-lowering activity of adzuki bean(Kuriya KGotto SKobayashi ENishio MNakamura MUmekawa H.)	Mol Biol Rep	2023年5月	
		閉経後骨粗しょう症モデルマウスにおける茶粉末摂取の骨密度低下抑制効果 / 西尾昌洋, 山中悠里, 栗谷健志, 梅川逸人, 松田智子	日本食品化学学会誌	2023年8月	
		Green tea polyphenol EGCG induces cell fusion via reactive oxygen species. (Kuriya KIttoh SIsoda ATanaka SNishio MUmekawa H.)	Biochem Biophys Rep.	2023年9月	
兵庫SC	岡田 修一	Does Future Time Perspective Moderate Associations of Instrumental and Affective Attitude With Exercise Behavior? A Three-Wave Longitudinal Survey Among Japanese Older Adults(Kazuhiro Harada, Kouhei Masumoto, Shuichi Okada)	The Journals of Gerontology: Series B	2023年8月	
		Leisure-time management and subjective well-being among older adults: A three-wave longitudinal survey(Kazuhiro Harada, Kouhei Masumoto, Shuichi Okada)	Archives of Gerontology and Geriatrics	2024年2月	
広島SC	吉村 幸則	Aging-associated increased nitric oxide production is a potential cause of inferior eggshell quality produced by aged laying hens(M. Elhamouly, T. Nii, N. Isobe, Y. Yoshimura)	Theriogenology	2023年7月	
		Intravaginal injection of Lactobacillus johnsonii may modulates oviductal microbiota and mucosal barrier function of laying hens(T. Nii, T. Shinkoda, N. Isobe, Y. Yoshimura)	Poultry Science	2023年8月	
		Innate Immune Training in Chickens for Improved Defense against Pathogens: A Review (Yukinori Yoshimura, Takahiro Nii, Naoki Isobe)	The Journal of Poultry Science	2024年3月	
山口SC	杉浦 崇夫	健康若年者における日中の身体バランス能力の時刻による変化とその要因に関する検討 ~重心動揺計を用いて~/ 沼田 麗, 杉浦 崇夫, 曾根 涼子	体力科学	2023年8月	
徳島SC	橋爪 正樹	Evaluation of a PUF Embedded in the Delay Testable Boundary Scan Circuit (Hayato Miki, Eisuke Ohama, Hiroyuki Yotsuyanagi, Masaki Hashizume)	2023 International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers, and Communications, ITC-CSCC 2023	2023年6月	
		A DFT Technique for Electrical Interconnect Testing of Circuit Boards with 3D Stacked SRAM ICs (Yuki Ikin, Hiroyuki Yotsuyanagi, Fara Ashikin Binti Ali, Shyue-Kung Lu, Masaki Hashizume)	Proc. of 12th IEEE CPMT Symposium Japan (ICSJ2023)	2023年11月	
高知SC	深見 公雄	Antimicrobial and Growth-Promoting Properties of Cultured Seaweeds Confer Resistance and Attraction to Ice-Ice Disease-Causing Bacteria: A Proposed Seaweed-Bacteria Pathosystem Model(Danilo B. Largo, Kimio Fukami, Masao Adachi, Flower E. Msuya, Masao Ohno)	Tropical Phyconomy Coalition Development (pp.263-276)	2024年3月	
福岡SC	久枝 良雄	人工酵素の創造	學士會会報	2023年11月	
		Role of Halobenzene Guest Molecules in Modulating Room Temperature Phosphorescence of Benzophenone-Naphthalene Dimide Inclusion Crystals(Yoshifumi Tsukiyama, Yusui Yamamoto, Daiki Koga, Luxia Cui, Yu Hoshino, Yoshio Hisaeda, Toshikazu Ono)	Chemistry – An Asian Journal	2024年2月	



## 2023年度研究成果の発表・普及【講演・口頭発表等】

所属	氏名	テーマ、共著者	主催等	開催年月日
人間と文化	野崎 敏	大江文学に宿る希望の光	NHK文化センター名古屋教室オンライン講義	2023年5月19日
		翻訳と魔法のあいだで考える/奈倉有里,野崎敏	奈倉有里「ことばの白地図を歩く」刊行記念対談、 ジュンク堂池袋書店	2023年7月8日
情報	青木 久美子	大江健三郎とフランス文学	東京大学文学部大江健三郎文庫 発足記念式典記念講演	2023年9月1日
		From Traditional to Tech-Enabled: The Open University of Japan's Journey Towards Digital Transformation (DX)(Kumiko Aoki)	PROF XXI Global Symposium Lx23	2023年4月18日
辻 靖彦	辻 靖彦	Modalities of Distance Education: Muddied Water of Educational Landscape(Kumiko AokiPh.D)	6th World Conference on Research in Teaching and Education	2023年7月7日
		欧米で広がるマイクロクレデンシャルの最新動向〜スキルシフトの観点から〜	人材戦略セミナー2023	2023年7月21日
		オンライン研修の効果的な実施について	障害者職業総合センター職員研修	2023年9月5日
		E-Learning and Contents Development at the Open University of Japan	JICA「ルワンダICTを活用した初等理科科学の改善プロジェクト」	2023年10月26日
		Toward Asia-Pacific MOOCs Collaboration(Kumiko Aoki)	Asia MOOC International Conference	2023年11月1日
		Synchronicity Paradox of Open, Flexible, and Distance Learning: Engagement or Constraint?(Kumiko Aoki)	ICDE2023 World Conference	2023年11月8日
		Digital Confluence: Where Virtual Learning Meets Metaverse Synchronicity(Kumiko Aoki)	2023 7th International Conference on Education and E-Learning (ICEEL2023)	2023年11月27日
		Embracing Synchronicity in Distance Education: Unraveling the Paradox(Kumiko Aoki)	ICCE2023(International Conference on Computers in Education)	2023年12月8日
		Next-Gen Distance Education: Blending Synchronous & Asynchronous Learning in Virtual Commons(Kumiko Aoki)	AAOU Webinar Series 2023	2023年12月13日
		生涯学習を可視化するマイクロクレデンシャル〜スキルシフトの観点から〜	「教育DX」学習会	2024年1月25日
山田 恒夫	山田 恒夫	コロナ禍を経て講義科目におけるICT利用量は変わったか/辻 靖彦,高比良美詠子,稲葉利江子,田口真奈	日本教育工学会2023年秋季全国大会	2023年9月16日
		オープンエデュケーションの取組に影響を与える要因の分析 国内の高等教育機関の調査結果から/重田勝介,酒井博之,辻 靖彦,稲葉利江子,平岡齊士	日本教育工学会2023年秋季全国大会	2023年9月17日
		高等教育機関におけるICT利活用の現状と展望 ~令和5年度調査の結果から~/重田勝介,酒井博之,辻 靖彦,稲葉利江子,平岡齊士,伏木田稚子	大学ICT推進協議会2023年次大会	2023年12月14日
		大学教員の授業におけるICT利用のコロナ禍前後の変化 ~2019, 2020, 2021, 2022年の4地点比較~/辻 靖彦,高比良美詠子,稲葉利江子,田口真奈	日本教育工学会2024年春季全国大会	2024年3月3日
		アクセシブルツーリズムにおける着地型観光情報の有効性 ~Q&Aサイトのテキストデータからの重要な観光情報の因子抽出~/村山朗,辻 靖彦,山田恒夫	情報処理学会第86回全国大会	2024年3月17日
		Workshop: Delivering a Large-Scale Ecosystem Strategy(SmytheC,Mjovik E, YamadaT,RenderSE)	1EdTech Europe Annual Conference 2023 (University of Nottingham, UK)	2023年9月14日
		Developing a Learning Ecosystem for Japan(YamadaT,FujiwaraS,TokiwaY)	1EdTech Europe Annual Conference 2023 (University of Nottingham, UK)	2023年9月14日
		OUJ's Challenge for Global Outreach(FuchigamiT,YamadaT)	AAOU Annual Conference 2023 (Istanbul, Turkey)	2023年9月28日
		Online Project Learning for e-Volunteering(YamadaT)	AAOU Annual Conference 2023 (Istanbul, Turkey)	2023年9月28日
		ポストコロナの国際ボランティア:サイバーボランティア活動の意義と可能性	放送大学オンライン講演会 (ハイフレックス,東京文京学習センター)	2024年2月17日
自然と環境	大森 聡一	1EdTech技術標準とそのわが国における普及に関する最新動向: 教育情報デジタルエコシステムの実現可能性	大学ICT推進協議会学術・教育コンテンツ共有流通部会 (AXIES-CSD) 2024年度第2回研究会 (九州工業大学飯塚キャンパス),2024年2月20日	2024年2月20日
		教育学と情報技術を階層構成するマイクロクレデンシャルのシステムアーキテクチャ/井上雅裕,丸山智子,山田恒夫,池田佳子,芦沢真五	情報処理学会第86回全国大会 (神奈川大学,2024/3/15-17)	2024年3月15日
		History of our perspective on the Earth system(Soichi Omori)	Online International Conference on SDGS & Digital Learning, NOU, Taiwan	2023年5月19日
		自己エネルギーに基づくパラメタフリーな複素吸収ポテンシャルの構成/今村洸輔,安池智一,佐藤啓文	第25回理論化学討論会	2023年5月1日
		塩水中のステアリンの分散に及ぼすアルカンの影響/平野奨,瀬井達也,安池智一	第74回コロイドおよび界面化学討論会(信州大学)	2023年9月1日
		金属ナノ粒子と分子の複合系におけるプレキシト形成の微視的描像	第17回分子科学討論会(大阪大学)	2023年9月1日
		インジウムナノ粒子による深紫外近接場と分子の相互作用/長塚直樹,松口諒斗,小坂谷貴典,奥山弘,渡邊一也,安池智一	表面界面スペクトロスコーピー2023	2023年12月1日
		インジウムナノ粒子による深紫外域局在プラズモンと吸着分子の相互作用/長塚直樹,松口諒斗,奥山弘,安池智一,小坂谷貴典,渡邊一也	日本化学会第104春季年会(日本大学)	2024年3月1日
		ケースシンポジウム「膠原病から癌を併発した女性との心理療法〜嘆き上がるエネルギーと生命の根源に触れること」(発表者 城谷仁美)指定討論	日本ユング心理学会第11回大会	2023年6月4日
		事例検討,再考	京都府臨床心理士会 第82回研修会	2023年6月11日
心理面接の基本に立ち返るー心理臨床にできることー	長野県公認心理師・臨床心理士協会第5回大会	2023年6月18日		
箱庭療法についての実習を通しての理解	応用心理カウンセラー協会 研修会	2023年7月17日		
教室で生かすカウンセリング・アプローチ対応が困難な児童・生徒や保護者対応を中心としてー	兵庫県私学連合会学校カウンセリング研究会 カウンセリング研修会	2023年8月9日		
辺縁から拓く心理臨床学ー地域に根ざした臨床研究の方法論を模索するー指定討論	日本心理臨床学会第42回大会	2023年9月2日		
学校現場でおこっていることー教師の傷つき,スクールカウンセラーの無力感	日本ユング心理学会第10回 研修会	2023年9月10日		
何が心理臨床なのかー学問的多様性のための理論についてー指定討論	日本心理臨床学会第42回大会Web大会	2023年9月22日		
ワークショップ講師「遊ぶことと現実」ーファンタジーの「終わり」と心理療法の「終結」	日本遊戯療法学会第28回大会	2023年10月21日		
ワークショップ講師「プロセス」と「作品」	日本箱庭療法学会第36回大会	2023年10月28日		
発達障害のプレイセラピーにおける展開のための逆行ー低次の遊びに戻ることに着目してー(発表者 山口孝貴)指定討論	日本箱庭療法学会第36回大会	2023年10月29日		
看護におけるコミュニケーションーどうすれば人とつながれるのかー	宮城看護学会第17回学術集会	2023年11月18日		

## 2023年度研究成果の発表・普及【講演・口頭発表等】

所属	氏名	テーマ、共著者	主催等	開催年月日
北海道SC	山田 義裕	ポストコロナ時代における「他者との出会い」ーモビリティーズ研究の観点から	北海道学習センター アカデミック・カフェ(公開講演会)	2023年9月2日
		観光研究から平和を考えるーピースツーリズム研究の試み	北海道学習センター アカデミック・カフェ(公開講演会)	2024年3月2日
茨城SC	小野寺 淳	日本図の夜明けー長久保赤水と伊能忠敬ー	2023年度放送大学茨城学習センターライブラリー講演会	2023年4月15日
		水戸藩の地図製作者たちー伊能図との関わりを中心にー	歴史地理学会第66回大会	2023年5月20日
群馬SC	工藤 貴子	古地図で楽しむ水戸ー江戸時代の地図から知る水戸城下町の移り変わり	茨城県立図書館「知の探求セミナー」水戸の梅まつり講演	2024年3月3日
		Theoretical Study of the Si/C mixed analogues of polyhedral compounds (Tamotsu Uchiyama,Taiji Nakamura,Miyabi Hiyama,Takako Kudo)	The 5th Conference of Theory and Applications of Computational Chemistry (TACC203)	2023年9月5日
新潟SC	大原 謙一	Theoretical study of Si/C mixed analogues of some hydrocarbons(Takako Kudo)	The 5th Conference of Theory and Applications of Computational Chemistry (TACC2023)	2023年9月6日
		Ten-Membered Cyclodecatetraene Derivatives Including Two Gallium Atoms: Synthesis, Structures, Reactivity and Theoretical Studies(Go Nagaishi, Masayoshi Ikeda, Kanako Takako Kudo, Yuka Ikemoto, Taro Moriwaki, Takako Muraoka)	第69回有機金属化学討論会	2023年9月13日
石川SC	千木 昌人	ケイ素・炭素混合多面体化合物に関する理論的研究/内山 保,中村 泰司,榎山 みやび,工藤 貴子	第17回 分子化学討論会 (分子科学討論会2023)	2023年9月13日
		Some improvements of Hilbert-Huang transform for time-frequency analysis of gravitational waves(Ken-ichi Oohara)	XVIII International Conference on Topics in Astroparticle and Underground Physics 2023	2023年8月30日
京都SC	玉田 芳史	視覚・味覚・嗅覚を刺激する身近な化学物質	生涯現役 みんなの寺屋 さいエンス・カフェ	2023年9月18日
		風は吹いたのか:何がかわるのか	日本タイ学会2023年度研究大会(大東文化大学)	2023年7月9日
奈良SC	井上 容子	ニティ先生から学んだタイ政治の眺め方 (タイ語での講演「ได้เรียนรู้อะไรจากอาจารย์นิติ: มองการเมืองไทยอย่างไรดี」)	ニティ教授追悼講演会	2023年9月27日
		東南アジア大陸部の政治情勢:タイを中心として	大阪能率協会セミナー	2023年10月18日
島根SC	島根SC	タイ研究者への道筋(タイ語での講演「ทางจากมาเป็นนักไทยศึกษา」)	退職記念本出版シンポジウム(チェンマイ大学)	2023年11月5日
		視覚特性の加齢変化を考慮した照明の適正化手法に関する研究:色温度と照度の同時変化時における若齢者と高齢者の不快率の比較/許 載永,石原 万葉,鈴木 圭,井上 魁流,井上 容子	日本家政学会大会研究発表要旨集	2023年5月27日
		作業環境における生活行為を考慮した適正照明手法に関する研究ーPC・スマートフォン操作と雑誌を読む場合ー/中村彩乃,許載永,井上容子	日本建築学会近畿支部研究報告集 第63号・環境系	2023年6月25日
		The Appropriate Lighting Techniques Considering Daily Activities in Working Environment(Ayano Nakamura,Heo Jaeyoung,Youko Inoue)	Proceedings of The 14th Asia Lighting Conference	2023年8月17日
		Research on Appropriate Lighting Methods that Take into account the Psychological Changes due to the Seasons(M. Hagio,J. Heo,Y. Inoue)	Proceedings of The 14th Asia Lighting Conference	2023年8月17日
		Study of Lighting Method Considering Young Residents Circadian Rhythms(J. Shen,J. Heo,Y. Inoue)	Proceedings of The 14th Asia Lighting Conference	2023年8月17日
		年齢層と生活行為に配慮した照明の適正化に関する研究 (その7)照度・色温度同時変化における変化前後不快率の年齢層比較/中村彩乃,許載永,井上容子	照明学会全国大会講演論文集	2023年9月5日
		概日リズムに配慮した照明手法の提案 照明の雰囲気に対する印象の朝晩比較 (若齢者の場合)/沈京如,許載永,井上容子	照明学会全国大会講演論文集	2023年9月5日
		年齢層と生活行為に配慮した 照明の適正化に関する研究 (その6 照度・色温度単独変化における変化前後 不快率の年齢層比較/許載永,中村彩乃,井上容子	照明学会全国大会講演論文集	2023年9月6日
		作業環境における生活行為を考慮した適正照明手法に関する研究 作業性についての評価と既往研究との比較/中村彩乃,許載永,井上容子	日本建築学会2023年度大会術講演梗概集 環境工学	2023年9月13日
福岡SC	久枝 良雄	季節による心理変化を考慮した 適切な照明手法に関する研究(その1) 夏季から冬季までの検討/萩尾みなみ,許載永,井上容子	日本建築学会2023年度大会術講演梗概集 環境工学	2023年9月13日
		居住者の概日リズムに配慮した照明手法の検討(その1)ー若齢者の照明に対する印象の朝晩比較ー/沈京如,許載永,井上容子	日本建築学会2023年度大会術講演梗概集 環境工学	2023年9月13日
島根SC	出口 顕	読むことと書くことの比較文化論	放送大学島根学習センター公開講演会	2023年12月24日
福岡SC	久枝 良雄	バイオインスパイアード触媒 (人工酵素の創造)	一般財団法人化学物質評価研究機構(CERI) 寄付講座	2023年12月16日
		身近な錯体化学入門	放送大学福岡同窓会 所長講演会	2024年2月25日

## 2023年度研究成果の発表・普及【受賞】

所属	氏名	受賞内容	受賞年月
生活と福祉	戸ヶ里 泰典	看護組織のsense of coherenceスケール:信頼性と妥当性の検証 / 学術論文優秀賞	2023年8月
社会と産業	柳原 正治	瑞宝中綬章	2023年11月
人間と文化	野崎 敏	外務大臣表彰	2023年8月
自然と環境	加藤 和弘	サール『人類の深奥に秘められた記憶』(集英社刊)の翻訳に対して / みんなのつばやき文学賞(海外篇)	2024年3月
秋田SC	倉林 徹	特別研究員 竹重志織 高解像度GISデータから解明する水鳥の移動空間として重要な河川の特徴 / 日本生態学会第71回大会ポスター賞<景観・遷移・更新部門 最優秀賞>(竹重志織・澤祐介・加藤和弘)	2024年3月
神奈川SC	大谷 英雄	応用物理学に関する啓発、教育、公益活動に関する貢献 / 第17回(2023年度)応用物理学会東北支部貢献賞	2023年12月
山梨SC	村松 俊夫	2022年度北川学術賞	2023年5月
兵庫SC	岡田 修一	A Study of Tangible - n / 最優秀作品賞	2023年9月
		高齢夫婦における健康行動の相互影響と就労時間による差異:3年間の縦断研究 / 第65回日本老年社会学会大会 優秀ポスター賞(原田和弘・増本康平・岡田修一)	2023年7月

## 2023年度研究成果の発表・普及【その他】

所属	氏名	題名、共著者	誌名	出版年月	
生活と福祉	川島 聡	基礎収入の算定における聴覚障害者差別	意見書(大阪高等裁判所宛)	2023年6月	
		インタビュー(朝日新聞取材班「発達「障害」でなくなる日」(朝日新書,2023年)再録)	朝日新聞	2023年6月	
		社会モデルを用いるべき理由	精神医療	2023年7月	
		障害者差別をなくす	月間福祉10月号	2023年9月	
		障害者差別解消法の概要と改正	JA金融法務No.641	2023年10月	
		講演録:障害者差別解消法について 二つの「障害のモデル」をめぐって	人権のひろば 福祉労働	2023年11月 2024年1月	
戸ヶ里 泰典	戸ヶ里泰典,井上洋士,高久陽介,大島岳,阿部桜子,細川陸也,塩野徳史,米倉佑貴,片倉直子,山内麻江,井上智史,河合薫,関由起子,若林チヒロ,大木幸子	HIV陽性者におけるうつ傾向に対するスティグマの認知およびソーシャルサポートの関連性/	日本エイズ学会誌	2023年11月	
		HIV陽性者に対するうつ傾向に対するソーシャルサポートネットワークの関連性/	日本エイズ学会誌	2023年11月	
奈良 由美子	安全・安心とリスクコミュニケーション - COVID-19対策を例に - 安心・安全・ウェルビーイングな社会の実現に向けて(第60回健康管理 向殿政男,奈良由美子,佐藤裕司,前田秀雄ほか	健康管理(保健文化社)	2023年5月		
		研究協議会ディスカッション/ 健康管理(保健文化社)	2023年6月		
山田 知子	田端光美先生を偲ぶ一農村の生活調査と地域福祉 長い高齢期どう生き抜くかー盤石な高齢期は可能か https://caresul-kaigo.jp/column/articles/34102/ 長い高齢期どう生き抜くかー盤石な高齢期は可能か	学会ニュース『日本社会福祉学会』	2023年7月		
		ケアスル介護	2024年2月		
心理と教育	岩崎 久美子	リスクリングは「雇用されるための学習」大人の学びはなぜ変化した/岩崎久美子,高重治香	朝日新聞(オンライン)	2023年4月	
		お金と雇用に効くリスクリングでは「どう生きるか」考える学びとは/岩崎久美子,高重治香	朝日新聞(オンライン)	2023年4月	
		社会教務主事講習のオンライン実施の講座設計	社会教育	2023年5月	
		学びの本質	UCカード会員誌『てんとう虫』	2023年5月	
		リスクリングの庄:雇用のため 収斂する学び/岩崎久美子,高重治香	朝日新聞 朝刊(オピニオン&フォーラム)	2023年5月	
		教育の理想を追求した教育実践家ークルト・ハーン(1)(世界の教育リーダー第5回)	文部科学教育通信	2023年7月	
		教育の理想を追求した教育実践家ークルト・ハーン(2)(世界の教育リーダー第6回)	文部科学教育通信	2023年7月	
		教育の理想を追求した教育実践家ークルト・ハーン(3)(世界の教育リーダー第7回)	文部科学教育通信	2023年7月	
		書評:星野映・中嶋哲也・磯直樹編著「フランス柔道とは何かー教育・学校・スポーツ」青弓社 2022年	フランス教育学会紀要	2023年9月	
		岩永 雅也	「特異な才能」をめぐる議論とその背景	小学保健ニュース	2023年4月
社会と産業	白鳥 潤一郎	有識者会議における審議の展開	小学保健ニュース	2023年5月	
		「審議のまとめ」と才能教育の今後	教育学研究	2023年6月	
		『教育学年報13 情報技術・AIと教育』	教育学研究	2023年9月	
		特異な才能のある児童生徒(ギフテッド)の指導と支援	市町村教委	2023年10月	
		特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援	最新教育動向2024	2023年12月	
		シンポジウム記録 子どもの発達支援公開シンポジウム「知と心を育むプレイセラピー」/大山泰宏ほか	学習院大学心理相談室紀要	2023年4月	
		<特別寄稿>第4期教育振興基本計画が策定-学校の向き合い方	教職研修	2023年12月	
		行政の権限と責任で進めなければならないこと (<特集>「働き方改革」のボトルネック再点検: 「3分類」,授業時数……なぜ学校は手放せないのか)	教職研修	2024年2月	
		村松 健司	学生相談活動を振り返って	東京都立大学学生相談レポート	2024年1月
		森 津太子	心にひそむ考え方のクセを徹底紹介!ハイラス大図鑑/池田 まさみ,森 津太子,高比良 美詠子,宮本 康司	Newton = ニュートン : graphic science magazine	2024年3月
人間と文化	大橋 理枝	「資源小国」はつらいよ	公研	2023年9月	
		(対話)新時代を迎えるエネルギー環境 何が勝者と敗者を分かつのか?/田中 伸男,白鳥 潤一郎 (座談会)エネルギーから見えてくる国際政治のゆくえ/竹原 美佳,白鳥 潤一郎,田中 浩一郎,宮岡 勲	公研 三田評論	2024年2月 2024年2月	
情報	鈴木 一史	書評	Japanese Journal of Political Science	2023年9月	
		コミュニケーション状況の現在と未来:コロナ・パンデミックの先に何を見る?/ 年次大会企画委員会	国際行動学研究	2023年7月	
		AIとコミュニケーション/山口 高平,鈴木 志のぶ,山田 晴通,大橋 理枝	日本コミュニケーション研究	2024年1月	
		新刊クローズアップ『イン/ポライトネスーからまる善意と悪意ー』	日本語学	2024年3月	
		大江文学の宿す生命力	週刊読書人	2023年4月	
		比類なき師ー菅野昭正先生の思い出	すばる	2023年6月	
		外国文学者はエッセイを目指す	文學界	2023年9月	
		追悼 ミラン・クンデラ	週刊読書人	2023年9月	
		物語の死、およびその他の豊かな物語について	ケヤキブングク	2023年11月	
		島根SC	出口 顕	クラスタリングによる減色に基づく点群データ配色システム/鈴木 一史,柳沼 良知,児玉 晴男	第25回日本感性工学会大会 3C01-07
情報社会の倫理の経緯と現状ー特集 ネット社会と情報倫理	弘道第1144号			2023年6月	
心理と教育	村松 健司	情報科の入試問題に関する一考察/辰己 丈夫,稲垣 俊介,角田 博保, 久野 靖,佐久間 拓也,高橋 尚子,中野 由章,和田 勉		2023年8月	
		「場面緘黙症の小学生女兒との遊戯面接」へのコメント	専修大学心理教育相談室年報	2023年8月	
島根SC	出口 顕	書評クラウド・レヴィ=ストロース『構造人類学ゼロ』	週刊読書人	2023年11月	

## Annual Review 2023

## 国際交流への取り組み

2023年度は、新型コロナウイルス感染症の流行が収束し、世界各国で入出国の規制や行動制限が撤廃され、従来のような海外渡航を伴う国際会議への参加や調査訪問等が完全に復活した。開催延期となっていた日中韓セミナーを4年ぶりに本学主催により実施したほか、加盟団体による国際会議に現地参加したり、協力交流協定を締結している海外の大学からの調査訪問団の受け入れや式典への参加に取り組んだ。さらに

は在外邦人等の受け入れに向けた検討を引き続き進めており、「在外邦人等に向けた海外受講モニター調査」を実施したほか、交流のある海外の公開大学やその他関連機関への訪問調査を実施した。本学の国際交流事業は、コロナ禍以前の活動を再開するとともに将来の可能性に向けて精力的に取り組んだ一年となった。

## 第10回日中韓セミナーの開催

第10回日中韓セミナーが、9月14日に開催された。中国の国家開放大学(OUC)と韓国の韓国放送通信大学(KNOU)からそれぞれ代表者が参加し、4年ぶりに開催されたこのセミナーでは、「ポストコロナの遠隔教育」テーマで議論が行われた。前日の13日には歓迎レセプションも実施した。セミナーでは、学習者と教育者の支援、COVID-19パンデミック中の経験、そして将来の展望についての講演や議論が行われた。本学からは辰己丈夫教授と李鳴教授がテーマに沿ってそれぞれ発表を行った。2024年度はOUCの主催により中国で掲載される予定である。



日中韓セミナー終了後、参加者全員で

## AAOU理事会及び年次大会への参加

トルコ・アナドル大学主催により、2023年9月28日から30日にかけて、AAOU(Asian Association of Open Universities、アジア公開大学連合)第36回年次大会が、イスタンブール大学Faut Sezgin Congress Centerで開催された。20か国250人以上の遠隔教育関係者が参加し、本学からは代表者と教員が参加した。AAOU理事会にはメンバーとして岩永雅也学長および林徹副学長が参加し、活発な意見交換を行ったほか、大会のテーマ「高等教育のデジタル化時代における公開大学の将来」に関連する基調講演やパネルディスカッション等約150の口頭発表が行われた。またオンラインプロジェクト学習や異分野統合科目などの取り組みが紹介された。本学からは3件の口頭発表を行った。山田教授は、「Online Project Learning For E-Volunteering」という題目で、2018年度以降放送大学大学院オンライン科目で使用している、遠隔(仮想)グループ(プロジェクト)学習の成果について報告した。二河教授は「Cross Disciplinary Courses in Promoting Multiple Perspectives to Lifelong Learners」として、本学の学生が生涯学習として本

学をどの様に利用しているのか、生涯学習での多様な学びを促すアイデアについて紹介した。淵上事務局長は「OUJ's Challenge For Global Outreach」という題目で、放送大学の国際展開について、これまでの経緯、現在の計画、そして計画実現のために現在実施している海外受講モニター調査について報告した。

来年の大会はパキスタンで開催される予定。



AAOU理事会にて

## 教員による社会貢献

### 新たな協力交流協定の締結

今年度は新たにギリシャ公開大学およびアナドル大学(トルコ)の2校と交流協定を締結した。

ギリシャ公開大学は1992年に設立され、1997年に遠隔教育を行う公開大学として認可され、ギリシャ唯一の遠隔教育大学である。2023年9月26日、放送大学代表団がギリシャ・アテネのギリシャ公開大学アテネ校舎を訪問し、ギリシャ公開大学との交流協定に関する調印式が行われた。調印式にはIoannis Kalavrouziotis学長、本学の岩永学長をはじめ多くの代表者が参加し、調印後には昼食会やアクロポリス博物館の訪問が行われた。

また、トルコ・アナドル大学は1958年に設立されたトルコの国立大学で、エスキシェヒルにメインキャンパスを構える。25,000人の通学生と117万人の通信教育生がおり、また海外に複数の拠点を設けるなど積極的な海外展開を行っている。前述の

AAOU2023年次大会開催時にFuat Erdal学長をはじめアナドル大学の代表団と本学岩永学長以下代表団にて会談を実施し、交流協定を締結することで合意した。その後郵送にて調印が行われた。

両大学ともに、今後は、教職員の交流や教材や教育システムの国際展開に関して、情報交換を積極的に行っていく予定である。



ギリシャ公開大学にて

トルコ・アナドル大学学長と

### 在外邦人等への教育サービス提供の検討とモニター調査の実施

近年のインターネットの普及により受講形態は多様化している。インターネットを利用した単位認定試験も導入された。日本国外からも本学のコンテンツを受講できる環境が整いつつある。そのため、本学として創設以来約40年間に渡り築き上げてきた質の高い遠隔教育・生涯学習の強みを活かして、在外邦人への教育サービス提供の検討を開始した。

今年度は在外邦人等に対しモニター調査を実施した。1学期に17の国・地域から60人、2学期には31の国・地域から103名のモニターが参加し、放送授業とオンライン授業を受講した。この調査を踏まえ、今後実際に海外展開する場合に必要な実務及び技術的な課題等への対応を引き続き検討していく。

### 本学との協力交流協定を締結している海外の大学(2024年3月時点)

機関名	国・地域	締結年月日
Royal University of Bhutan ブータン王立大学	ブータン	2017/8/18
Universidade Federal de Mato Grosso (UFMT) マトグロッソ連邦大学	ブラジル	2018/9/28
Athabasca University アサバスカ大学	カナダ	1992/9/19
The Open University of China 国家開放大学	中国	2009/5/7
Hellenic Open University ギリシャ公開大学	ギリシャ	2023/9/26
Korea National Open University 韓国放送通信大学校	韓国	2008/9/22
National University of Mongolia (NUM) モンゴル国立大学	モンゴル	2019/10/15
Universitat Oberta de Catalunya カタルーニャ公開大学	スペイン	2014/8/1
National Open University 国立空中大学	台湾	1993/4/16
Sukhothai Thammathirat Open University (STOU) スコータイ・タマティラート公開大学	タイ	2012/5/15
Anadolu University アナドル大学	トルコ	2024/1/26
The Open University オープン・ユニバーシティー	英国	2008/8/26
University of Maryland Global Campus メリーランド大学グローバルキャンパス校	米国	2009/11/15

本学は「開かれた大学」として、建学以来、熱心に社会貢献に取り組んできた。

本学の教員は、多岐にわたる社会貢献活動を行っており、その中から活動の一部を紹介する。

### 日本学術会議

日本学術会議は、科学が文化国家の基礎であるという考えのもと、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、政府から独立した「特別の機関」として1949年に設立された。

日本学術会議の役割は、主に①政府・社会に対して日本の科学者の意見を直接提言、②市民社会との対話を通じて科学への理解を深める、③地域社会の学術振興や学協会の機能強化に貢献、④日本を代表するアカデミーとして国際学術交流を推進である。(日本学術会議ホームページより抜粋)

本学の教員は、下表の会員加入状況が示すように連携会員に選ばれ活動に貢献している。

### 日本学術会議での会員(連携会員)加入状況

所属	氏名	職名	専門分野
社会と産業コース	玉野 和志	教授	社会学
社会と産業コース	山岡 龍一	教授	政治学・哲学
大阪SC	金水 敏	所長	言語・文学



### 金水 敏 大阪学習センター所長が文化功労者として顕彰されました

本学の金水 敏大阪学習センター所長(特任教授)・大阪大学名誉教授が、2023年11月6日(月)に開催された2023年度の文化功労者の顕彰式で顕彰された。

文化功労者の制度は、我が国の文化の向上発達に関し、特に功績顕著な方々を顕彰するものであり、今回の栄誉は、「ある」「いる」「おる」など日本語の存在表現の歴史を解明し、「役割語」という新たな概念を提唱された業績が高く評価されたもので、日本語学に新たな知見をもたらすなどの優れた業績を挙げ、その功績は極めて顕著である。



文部科学省(令和5年度 文化功労者顕彰式)のホームページより

本学では、2024年3月2日(土)に大阪学習センターで、金水所長の文化功労者顕彰を記念して、スペシャル講演会『「役割語」が切り開く、言語の地平』を、ハイブリッド方式で開催した。

参加申込者は、1,000名を超え、最終的に会場とオンライン合計で720名を上回る参加者で大盛況な講演会となった。



学会、国、地方公共団体等での活動

所属氏名	職名/役職	所属氏名	職名/役職
生活と福祉 朝倉 富子	公立研究開発法人科学技術振興機構内/ 井上春成賞選考委員会 委員 公益財団法人東洋食品研究所/研究助成選考委員	戸ヶ里 泰典	日本エイズ学会/代議員 日本健康教育学会/編集委員長 日本社会医学会/評議員 日本健康教育学会/理事 日本健康教育学会代議員 日本創傷・オストミー失禁管理学会査読委員 日本保健医療社会学会/理事
井出 訓	社会福祉法人 桜秀会/理事 北海道認知症グループホーム協会/外部理事 日本老年看護学会/評議員 日本老年社会学会/評議員 日本老年看護学会/査読委員 日本老年看護学会/評議員 日本老年社会学会/評議委員 日本老年社会学会/査読委員 日本認知症ケア学会/評議員	奈良 由美子	日本原子力研究開発機構 経営顧問会議 委員 東京都新型コロナウイルス感染症医療体制 戦略ボード 構成員 内閣官房 サイバーセキュリティ戦略本部 重要インフラ専門調査会 委員 内閣府「防災スペシャリスト養成」企画検討会委員 内閣官房 新型インフルエンザ等対策推進会議/委員 環境省中央環境審議会/臨時委員 東京iCDC(東京感染症対策センター) 専門家ボード リスクコミュニケーション チーム チーム長 環境省 エコチル調査に係る「地域の子育て世代 との対話」業務検討会/委員 科学技術振興機構 社会技術研究開発センター、 「科学と社会」推進部「SDGsの達成に向けた 共創的研究開発プログラム」プログラム総括補佐 土木学会原子力土木委員会 リスクコミュニ ケーション小委員会 委員長 名古屋大学/客員教授 経営関連学会協議会/評議員 土木学会原子力土木委員会 委員 日本リスクマネジメント学会 理事 社会・経済システム学会 理事 厚生労働省新型コロナウイルスに関連した 感染症対策に関する厚生労働省対策推進本部 事務局 参与 東京iCDC(東京感染症対策センター) 運営委員会委員
川島 聡	日本障害法学会/理事・企画委員会委員長 障害学会/理事・アクセシビリティ委員会委員長 国際人権法学会/理事・合理的配慮等に関する ガイドライン作成WG座長 全国障害学生支援協議会/理事・法務委員会委員長 岡山県人権政策審議会/副会長 日本学生支援機構「障害学生支援委員会」委員 日本学生支援機構「障害学生支援委員会専門部会」専門部会長 文部科学省「障害のある学生の修学支援に関する検討会」委員	山内 豊明	日本看護学教育学会/理事・評議員 日本医療機能評価機構 教育研修事業運営委員会/委員 厚生労働省 医道審議会/委員 日本臨床看護マネジメント学会/理事 日本看護管理学会/評議員 日本看護科学学会/評議員 日本学術振興会/専門委員 日本医療機能評価機構 医療事故等収集事業 専門分析班/委員 日本医療機能評価機構 医療事故等収集事業 総合評価部会/委員 日本看護医療学会/理事 文部科学省 科学技術・政策研究所 科学技術 予測・政策基盤調査研究センター/専門調査員 日本医療マネジメント学会/理事
川原 靖弘	日本学術会議 総合工学委員会科学的知見の 創出に資する可視化分科会細胞一身体可塑 基盤からの自分を知り育てる科学知見創出に 資する可視化小委員会/委員 電子情報通信学会行動と 認知時限研究専門委員会副委員長 人間情報学会理事, 編集委員	山田 知子	コープみらい/理事(学識経験者) 社会福祉法人サンフレンズ/社会福祉法人評議員 社会福祉法人恩賜財団済生会/中央試験審査委員 東京都共同募金会杉並地区配分推せん委員会/委員長 日本社会福祉学会/関東ブロック運営委員
下夷 美幸	日本家族社会学会理事		
関根 紀子	日本体力医学会/プログラム委員会 日本体力医学会/学術委員会委員 日本体力医学会/評議員 文部科学省/体力・運動能力調査に関する検討委員会協力員 日本体力医学会/渉外委員会委員		
田城 孝雄	豊島区在宅医療推進会議 会長 厚生労働省医政局 在宅医療普及啓発 推進支援事業企画書等評価委員会 委員 厚生労働省医政局 在宅医療普及啓発企画委員会 委員 文京区在宅医療推進協議会 会長 文京区地域医療連携推進協議会 副会長 厚生労働省医政局 地域医療再生計画に係る有識者会議 委員 内閣官房 地域活性化統合本部健康・医療の まちなかづくりに関する有識者・実務者会合 座長 内閣官房 構造改革特別区域推進本部 評価・ 調査委員会 医療・福祉・労働部会 専門委員 内閣官房 地域活性化統合本部 地方の元気応援人材ネットワーク 国立長寿医療センター 在宅医療推進会議 作業部会(医療連携) 部会長 板橋区乳がんの地域連携パス検討委員会 委員 足立区糖尿病対策協議会委員(アドバイザー) 世田谷区地域保健福祉審議会 高齢者福祉・介護保険部会 委員		

学会、国、地方公共団体等での活動

所属氏名	職名/役職	所属氏名	職名/役職
心理と教育 岩崎 久美子	内閣府/構造改革特別区域推進本部評価・ 調査委員会委員 文部科学省/独立行政法人国立科学博物館の 評価等に関する有識者会合委員 千葉県教育委員会/スーパーサイエンス ハイスクール(千葉県立長生高等学校) 運営指導協議会委員 日本生涯教育学会/理事 東京都武蔵野市/教育委員会委員 神奈川県川崎市/政策評価審査委員会委員 千葉県千葉市/新基本計画審議会委員 東京都港区教育委員会/港区立生涯学習施設 指定管理者選考委員会委員長 独立行政法人青少年教育振興機構/評価委員 千葉県千葉市教育委員会/第14期生涯学習審議会委員 東京都足立区教育委員会/足立区生涯学習 関連施設指定管理者選定審査会委員 文部科学省/「家庭教育の総合的推進に関する 調査研究(民間による家庭教育支援)」選定・ 評価委員会委員 筑波大学/WWLコンソーシアム構築支援事業 評価委員会委員	森 津太子	日本パーソナリティ心理学会/ 常任理事(経常的研究交流委員会委員長) 日本心理学会/地域別代議員(関東) 日本心理学会/優秀論文賞選考委員会 委員長 日本パーソナリティ心理学会/常任理事(財務担当)
岩永 雅也	一般社団法人 社会調査協会/理事長 学校法人十文字学園/ 十文字学園女子大学外部評価委員 足立区文化・読書・スポーツ推進会議/会長 筑波大学附属駒場中・高等学校/学校評議員	桑田 学	経済学史学会/幹事 社会思想史学会/非常任幹事
苑 復傑	一橋大学 森有礼高等教育国際流動化センター/ 客員研究員 東アジア共同体評議会/ 東アジア共同体評議会 有識者議員	児玉 晴男	和光大学/監査委員会委員 一般社団法人 企業法学会 理事長 一般社団法人 企業法学会 理事 山東大学 法学院 客座教授
櫻井 直輝	千葉県教育委員会/教育委員 大熊町奨学資金制度検討委員会/委員長 地方公務員安全衛生推進協会調査研究委員会/作業部会委員 日本教育経営学会/紀要編集委員会編集幹事 豊田市学校規模適正化・適正配置検討委員会/委員 府中市学校適正規模・適正配置検討協議会/委員 日本教育行政学会第58回大会実行委員会/実行委員	白鳥 潤一郎	霞山会/講演企画委員会委員 外務省/外交記録公開推進委員会常任委員 日本国際問題研究所/国際政治史研究会委員
進藤 聡彦	日本教授学習心理学会/理事長 日本教育心理学会/研究委員会委員 甲府市/児童福祉専門分科会委員(施設審査部会長) 甲斐市/いじめ防止連携協議会(議長) 山梨県/社会教育委員(同会議副議長・編集委員) 山梨県/教員のキャリアアップ研修審議会(委員長)	玉野 和志	日本社会学会/監事 地域社会学会/理事 社会調査協会/事務局次長 コミュニティ政策学会/理事 地方自治学会/理事 日本社会学会/常務理事
橋本 鉦市	日本高等教育学会/理事	原 武史	講談社本田靖春ノンフィクション賞選考委員 一般財団法人日中文化交流協会理事 一般財団法人日中文化交流協会常任委員
波田野 茂幸	立川市教育委員会/ 立川市就学支援等検討委員会委員	原田 順子	公益財団法人B(非公開)/授賞選考委員会/委員 横浜市/横浜市物流等関連施設等指定管理者 選定評価委員会/委員 一般財団法人A(非公開)/授賞選考委員会/委員 人材育成学会/選挙管理委員会/委員
向田 久美子	公益社団法人日本心理学会/地域別代議員 日本パーソナリティ心理学会/常任理事	松井 美樹	The Association of Supply Chain and Operations Management/Vice President, Academic Division Committee ベトナム国家大学/Associate Editor, VNU Journal of Science: Economics and Business オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会/ オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会 論文誌エリア編集委員 オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会/監査人 オペレーションズ・マネジメント&ストラテジー学会/ 第15回全国研究発表大会実行委員
村松 健司	一般社団法人日本心理学諸学会連合/理事 一般社団法人日本遊戯療法学会/理事長 東京都社会福祉協議会/カリキュラム委員 一般社団法人日本遊戯療法学会/理事・編集委員 一般社団法人日本遊戯療法学会/理事・研修委員長	松原 隆一郎	東京都広告物審議会/委員 杉並芸術会館/運営評価委員会座長 毎日新聞/書評委員
		柳原 正治	九州国際法学会理事長 日本国際法協会/研究企画委員会主任
		山岡 龍一	日本イギリス哲学会/会長 政治思想学会/理事 日本イギリス哲学会/理事

学会、国、地方公共団体等での活動

所属氏名	職名/役職
人間と文化	
魚住 孝至	実存思想協会/理事・編集委員
大橋 理枝	日本コミュニケーション学会/学術局運営委員(学会誌担当) 国際行動学会/理事
河原 温	公益財団法人 史学会/理事 都市史学会/常任委員 比較都市史研究会/編集幹事 メトロポリタン史学会/委員
杉森 哲也	都市史学会/会長
滝浦 真人	日本言語学会/学会賞委員長 日本言語学会/常任委員 日本語用論学会/評議員 国立国語研究所/運営会議 委員 文化審議会/国語分科会 国語課題小委員会 副査 文化審議会/国語分科会 国語課題小委員会 委員 日本言語学会/評議員 日本語用論学会/会長
野崎 敏	サントリー文化財団/サントリー学芸賞選考委員(芸術・文学部門)
宮本 徹	日本中国語学会/編集委員 中国出土資料学会理事 中国出土資料学会/副会長
宮本 陽一郎	筑波アメリカ文学会/会長
情報	
青木 久美子	放送大学/Web通信指導作業部会委員 放送大学 次世代学習研究開発センター/ ユニットマネージャー 日本理容美容教育センター/ITに関する検討会委員 放送大学/学長補佐
浅井 紀久夫	International Journal of Virtual and Personal Learning Environments/Associate Editors
大西 仁	電子情報通信学会通信行動工学時限 専門委員会委員 The 6th World Symposium on Communication Engineering (WSCE 2023)/ Technical committee member The 11th International Conference on Computer and Communications Management (ICCCM 2023)/Publication chair The 5th International Conference on Computer Communication and the Internet(ICCCI)/ Technical committee member
近藤 智嗣	日本オープンオンライン教育推進協議会/理事
辰己 丈夫	情報処理学会/広報小委員会 委員長 電子情報通信学会/ 「技術と社会・倫理」研究会副委員長 情報処理学会 教科書委員会 委員 情報処理学会 情報処理教育委員会 委員 情報処理学会 初等中等教育委員会 委員
辻 靖彦	教育システム情報学会 全国大会現地実行委員会/委員 教育システム情報学会関東支部/副支部長 教育システム情報学会関東支部/幹事 教育システム情報学会関東支部/役員 大学ICT推進協議会(Axies) ICT活用調査部会/研究員 情報処理学会CLE研究会/運営委員

所属氏名	職名/役職
中川 一史	中央教育審議会初等中等教育分科会/ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な 充実に向けた学校教育の在り方に関する 特別部会 教科書・教材・ソフトウェアの 在り方ワーキンググループ(委員)
	中央教育審議会初等中等教育分科会/ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な 充実に向けた学校教育の在り方に関する 特別部会(委員)
	文部科学省/GIGAスクール構想に基づく1人1台 端末の円滑な利活用に関する調査協力者会議(委員)
	文部科学省/デジタル教科書の今後の在り方等 に関する検討会議(委員)
	内閣府/青少年インターネット環境の整備等に 関する検討会(座長代理)
	教科書研究センター/「デジタル教科書に関する 調査研究委員会(委員長)
中谷 多哉子	情報処理学会技術士委員会/主査 情報処理学会/企業認定審査委員 りそな中小企業振興財団/中小企業優秀新技術・ 新製品賞 専門審査委員 日本技術者教育認定機構/JABEEソウル協定 プログラム対応部会委員 ソフトウェア技術者協会/幹事 知能ソフトウェア工学研究会/研究専門委員会委員
広瀬 洋子	一般社団法人全国高等教育障害学生支援協議会 監事
伏見 清香	日本展示学会/理事 愛知県児童総合センター/ 「2023汗かくメディア」選考委員
山田 恒夫	一般社団法人大学ICT推進協議会/ 大学ICT推進協議会 学術・教育コンテンツ 流通部会主査 日本オープンコースウェアコンソーシアム(JOCW)/監事
自然と環境	
大森 聡一	人事院/人事院 2024年度国家 公務員採用総合職試験 試験専門委員 文部科学省/教科用図書検定調査審議会 専門委員 人事院 2023年度国家公務員採用総合 職試験 試験専門委員
加藤 和弘	千代田区/ちよだ生物多様性大賞選定委員会副座長 千代田区生物多様性推進会議/副座長 一般社団法人 環境情報科学センター/理事 文部科学省科学技術政策研究所科学技術動向 研究センター/専門調査員
岸根 順一郎	理化学研究所仁科加速器科学研究センター/ 課題採択委員会委員 編集委員 固体物理/編集委員 東京大学物性研究所/共同利用施設専門委員会委員 国際物理オリンピック 2023 組織委員会/ 科学委員会専門委員

学会、国、地方公共団体等での活動

所属氏名	職名/役職
秋田SC	
倉林 徹	秋田県第三セクターの運営状況評価に係る 外部有識者委員会/委員(委員長) 秋田県地方独立行政法人評価委員会/ 評価委員(委員長) IEEE/member
茨城SC	
小野寺 淳	茨城地理学会/会長 茨城県教育委員会(教育庁文化課)/ 文化財保護審議会委員(2018年3月より副会長, 2024年3月4日より会長)
栃木SC	
伊東 明彦	日本地震学会/学校教育委員
群馬SC	
工藤 貴子	ケイ素化学協会/理事 JST 世界で活躍できる研究者育成プログラム 開発総合支援事業 開発普及委員会/委員 JST 科学技術人材育成のコンソーシアムの 構築事業委員会/委員
神奈川SC	
大谷 英雄	総務省消防庁/ 消防防災科学技術研究推進評価委員 総務省消防庁/ 危険物等事故防止対策情報連絡会主査 総務省消防庁/優良消防用設備等審査会委員 経済産業省/産業構造審議会委員 神奈川県/ 神奈川県石油コンビナート等防災対策検討会委員
石川SC	
千木 昌人	大学コンソーシアム石川/理事 石川化学教育研究会/会長 小松市環境審議会/委員
岐阜SC	
野々村 修一	岐阜県/気候変動適応センター長 岐阜県/地球温暖化防止・ 気候変動適応計画懇談会会長 岐阜県/新エネ・省エネ推進会議会長 「清流の国ぎふ」創生総合戦略/推進会議委員 岐阜市中心市街地活性化協議会/会長
奈良SC	
井上 容子	日本建築学会/夜間景観WG 委員 日本建築学会/明視評価WG 委員 日本建築学会/窓・開口部規準改訂WG委員 東大阪市営建替事業に係る事業者選定委員会/委員 大阪市屋外広告物審議会/会長 日本建築学会/色彩設計法小委員会 委員 奈良県大規模小売店舗立地審議会/委員 一般社団法人奈良県建築士会 専攻建築士審査委員会/評議員 奈良県廃棄物処理施設設置検討委員会/委員 日本建築学会/視環境設計小委員会 委員 日本建築学会/司法支援建築会議 会員 寝屋川市景観審議会/委員 守口市建築審査会/委員

所属氏名	職名/役職
高知SC	
深見 公雄	国交省四国地方整備局/河川・溪流環境アドバイザー 海洋深層水利用学会/理事,産学連携推進委員会委員長 独立行政法人大学改革支援・学位授与機構/ 大学機関別認証評価委員会専門委員
福岡SC	
久枝 良雄	公益財団法人宗像ユリックス/評議員 公益社団法人日本工学アカデミー/九州支部理事 錯体化学会/研究公正倫理推進委員会 委員 九州錯体化学懇談会/会長 国立研究開発法人 新エネルギー・ 産業技術総合開発機構/ピアレビューア
長崎SC	
山下 敬彦	電気協同研究会/「架空送電用ポリマーがいし 技術専門委員会」委員長 電気学会/理事・九州支部長 電気学会/代議員 電気学会/論文委員会(A3グループ)委員 一般社団法人 電気協同研究会/「架空送電用 ポリマーがいしの現状と今後の展望」委員会 長崎県/長崎県研究事業評価委員会委員長 長崎市/長崎市産業技術審査委員会委員
大分SC	
古城 和敬	日本教育心理学会/理事

社会貢献活動

所属氏名	社会貢献活動内容	所属氏名	社会貢献活動内容
生活と福祉 川島 聡	公益財団法人 人権教育啓発推進センター特任講師	村松 健司	東京都立しいの木特別支援学校/ 東京都立しいの木特別支援学校外部専門員
川原 靖弘	一般財団法人未踏医学研究財団/理事		東京都立しいの木特別支援学校/ 東京都立しいの木特別支援学校学校連絡協会委員長
戸ヶ里 泰典	沖縄県立看護大学/大学院 「ヘルスプロモーション・健康教育II」講義 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究所 高齢社会看護システム管理学/大学院 「高齢社会看護システム管理学特論I」講義 東京医科歯科大学教養部/ 「スポーツ・健康科学」講義「健康生成論」担当 順天堂大学大学院看護医療学研究所 「応用統計学」講義		東京都立しいの木特別支援学校/東京都しいの木特別支援学校実践報告会講師 東京都社会福祉協議会高機能化多機能化研修「生活場面における子どもの理解と支援」フォローアップ研修 東京都社会福祉協議会高機能化多機能化研修「生活場面における子どもの理解と支援」フォローアップ研修 一般社団法人日本スクールカウンセリング推進協会 オンディマンド研修/児童虐待の支援 -学校教育における課題- 2023ガイダンスカウンセラー実践力強化研修
奈良 由美子	全国大学生協共済生活協同組合連合会「大学生の生活リスク講座」プロジェクト(2015年3月～現在)		東京都江戸川区教育研究所/ 東京都江戸川区教育研究所研修会講師
山田 知子	杉並区社会福祉協議会/ 杉並区共同募金配分委員会委員長 社会福祉法人恩賜財団済生会/ 中央治験審査委員会委員		東京都社会福祉協議会/東京都社会福祉協議会高機能化多機能化人材研修「アタッチメント」二日目 東京都社会福祉協議会/東京都社会福祉協議会高機能化多機能化人材研修「アタッチメント」一日目 東京都社会福祉協議会/ 生活場面における子どもの理解と支援二日目 愛知県児童福祉施設長会「令和5年度第3回子ども支援部会研修会」/施設におけるチームアプローチについて考える
心理と教育 苑 復傑	一橋大学・森有礼高等教育国際流動化センター/客員研究員		東京都墨田区教育相談室/ 東京都墨田教育相談室事例検討会講師
櫻井 直輝	千葉県教育庁、株式会社マイナビ/教職員の働き方改革に向けた実態調査に関する業務委託事業 全日本教職員組合事務職員部/2023年(第32回)全国学校事務研究集会第3分科会研究分担者		東京都社会福祉協議会/ 生活場面における子どもの理解と支援 台東区教育支援館/ 不登校やいじめ、対人トラブルの背景にある問題 東京都社会福祉協議会/ 児童福祉施設における専門的対応とは 東京都保健福祉財団/現代青年の特徴と育て方
高橋 秀明	東京家政大学大学院人間生活総合研究科/非常勤講師	社会と産業 原 武史	日経Think! エキスパート 朝日新聞土曜版be連載「歴史のダイヤグラム」 日中文化交流協会常任委員
波田野 茂幸	平塚市子ども教育相談センター/平塚市子ども教育相談センター所内研修会講師(2024年1月26日実施) 立川市教育委員会教育部教育支援課/立川市教育委員会教育部教育支援課 教育相談事例研修会講師(2023年7月14日, 12月1日, 2024年3月8日) 港区子ども家庭支援部/港区児童館等における障害児への巡回相談講師 大東学園高等学校 学校精神保健コンサルタント 港区子ども若者支援課/令和5年度港区児童館等における障害児に関する協議会 特定非営利活動法人 東京都公立保育園研究会/東京都公立保育園研究会 保育ゼミ(オンライン)「保護者理解と支援」(2023年9月22, 10月20日, 11月24日実施) 豊島区子ども家庭部子ども若者課/豊島区子ども研修会「保護者支援」「保護者支援の考え方と対応-保護者対応の基盤作り-」(2023年10月19日実施) 練馬区教育委員会事務局 こども家庭部 保育課/練馬区保育所職員研修「保育園での人間関係 職員のバーンアウト予防」(2023年9月21日実施) 板橋区子ども家庭部子育て支援課/板橋区児童館職員研修「児童館での人間関係とマネジメント」(2023年9月11日実施) 板橋区子ども家庭部保育運営課/板橋区保育園職員研修(ガイドライン研修～保護者支援～)「保護者対応の基本-保護者理解から始まる対話-」(2023年9月11日実施) 中野区子ども教育部 保育園幼稚園課/中野区【保育の質ガイドライン研修】「保護者支援の考え方と面談の基本-傾聴の基礎-」(2023年9月7日実施) 大東学園高等学校/大東学園高等学校教職員夏季研修「思春期青年期と家族への支援」(2023年8月22日実施) 東京都教育庁指導部特別支援教育指導課/東京都障害のある児童・生徒の就学相談担当者講習会「保護者の心情に寄り添う就学相談のあり方-面談の実践について-」(2023年6月8日実施)	李 鳴	慶応義塾大学法科大学院/非常勤講師 市川中央老壮塾/保険法と市民生活-生命保険と相続を中心に(その3)
		人間と文化 大橋 理枝	放送大学静岡学習センター(オンライン配信あり)/体も口ほどにものをいう:非言語コミュニケーションのあれこれ 東京文京学習センター(オンライン配信あり)/多文化共生のコミュニケーション: 放送大学教養学部2024年度開講科目「多文化共生のコミュニケーション(24)」に寄せて 香川ほうゆう同窓会/体も口ほどにものをいう:非言語コミュニケーションのあれこれ
		宮本 徹	東京女子大学大学院人間科学研究科・現代教養学部非常勤講師 東京大学東洋文化研究所・班研究「中国古代文献の成立に関する多角的研究」研究協力者 中央大学経済学部兼任講師
情報	青木 久美子 Asuka Academy 理事 TCCHAWAll.org/Board of Directors		

社会貢献活動

所属氏名	社会貢献活動内容	所属氏名	社会貢献活動内容
情報 秋光 淳生	東京大学教養学部非常勤講師	公認心理師教育推進室 桑原 知子	三重県教育委員会/ 三重県中堅教諭等資質向上研修 島根心理療法研究会講演 医療法人社団 衿正会 生駒病院/人間関係に生かすカウンセリングのエッセンス
大西 仁	朝日大学経営学研究科/博士論文審査	障がいに関する学生支援相談室 角田 哲哉	国立病院機構下志津病院研究倫理審査委員 東京情報大学非常勤講師 千葉県教育委員会開かれた学校づくり委員会(四街道特別支援学校) 四街道市特別支援教育専門家チーム委員
加藤 浩	熊本大学大学院社会文化科学研究科教授システム学専攻/客員教授 北海道大学数理・データサイエンス教育研究センター/客員教授 日本教育工学会/監事 情報処理学会/データサイエンス教育委員会副委員長 情報処理学会/情報処理教育委員会委員	北海道SC 山田 義裕	北海道大学外国語教育センター非常勤講師
辰己 丈夫	千葉大学理学部非常勤講師「情報科教育法」 東京大学非常勤講師 教養学部「情報」 東京大学非常勤講師 理学部・工学部・教養学部「情報科教育法I」「情報科教育法II」	岩手SC 西崎 滋	滝沢市ラジオメディカルセンター放射線監視委員会委員 岩手県原発放射線影響対策本部放射線影響対策特命チームアドバイザー いわて高等教育コンソーシアム運営委員会 いわて高等教育コンソーシアム理事会
辻 靖彦	日本女子大学人間社会学部教育学科/ 教育方法・技術(中高)(非常勤講師) 明海大学/学修の基礎III-a(データリテラシー 数理・推論)(非常勤講師)	宮城SC 高橋 満	仙台市社会教育委員の会議 委員長
中谷 多哉子	日本ソフトウェア科学会/日本ソフトウェア科学会代表会員 情報処理学会/情報処理学会代表会員	群馬SC 工藤 貴子	国立研究開発法人 科学技術振興機構/文部科学省科学技術人材育成補助事業「世界で活躍できる研究者育成プログラム総合支援事業」シンポジウム出演/Researcher+シンポジウム 2024
葉田 善章	情報工学会(技術士CPDコラボ)/ワークショップ「コンピュータシステムをめぐる最近の動向」	石川SC 千木 昌人	石川化学教育研究会/ 第38回石川地区中学高校生生徒化学研究発表会
広瀬 洋子	NPO法人 FirstStep :引きこもり支援 理事 一般社団法人 全国高等教育障害学生支援協議会 監事	福井SC 小野田 信春	福井大学非常勤講師
山田 恒夫	一般社団法人 日本IMS協会 理事・運営委員会委員長・IMS Japan賞選定委員長 AAOU Asian MOOCs Steering Committee Member 大学ICT推進協議会(Axies)研究員・国際連携室長(現在に至る) 日本オープンオンライン教育推進協議会(JMOOC)事務局長(現在に至る) e-Learning Awards フォーラム実行委員会委員 国際共同研究: ASEM生涯学習ハブ(ASEM Education and Research Hub for Lifelong Learning, ASEM-LLL Hub)研究ネットワーク investigator 国際共同研究: eASEMプロジェクト(アジア欧州会合、生涯学習研究ポータル構築、白書作成プロジェクト) メンバー 国際NPO「Global Learning Object Brokered Exchange (GLOBE)」, Business/Stewardship Council Member NPO実務能力認定機構/NPO実務能力認定機構理事 放送大学/ポストコロナの国際ボランティア:サイバーボランティア活動の意義と可能性/放送大学オンライン講演会(ハイフレックス、東京文京学習センター)	滋賀SC 平井 肇	高校生のスポーツ交流 タイ国チェンマイ・ラジャパット大学日本センター顧問
	自然と環境 石崎 克也	高知SC 深見 公雄	公立鳥取環境大学「水域生態学」の1コマ分を講義担当/微生物食物連鎖の重要性～あなたの知らない新しいエネルギーの流れ～ 公益財団法人「黒潮生物研究所」理事 Editorial board member of the journal of "Hydrobiology" /MDPI, Hydeobiooogy Editorial Office Editorial board member of the journal of "Animals" /MDPI, Animals Editorial Office
	Analysis Math., Editor Mathematical Review, Reviewer Aequationes Math., Editor Zentralblatt MATH., Reviewer	福岡SC 久枝 良雄	一般財団法人化学物質評価研究機構(CERI)/バイオインスパイアード触媒(人工酵素の創造)/CERI公開講座「先端材料科学～設計、構造・物性、機能から機能化まで～」
	大森 聡一	長崎SC 山下 敬彦	電気学会/電気学会九州支部 長崎海洋産業クラスター形成推進協議会 令和5年度潮流発電技術実用化推進事業/九電みらいエナジー 令和5年度潮流発電技術実用化推進事業開発検討会 長崎県/長崎県研究事業評価/研究事業評価委員会 長崎市/長崎市産業技術審査/産業技術審査会 九電みらいエナジー/令和4年度潮流発電技術実用化推進事業/令和4年度潮流発電技術実用化推進事業開発検討会
	加藤 和弘		
	International Consortium of Landscape and Ecological Engineering/Editor		
	隈部 正博		
	Mathmatical Reviews/アメリカ数学会		
	安池 智一		
	東京大学/構造化学 金属表面で変化する分子のポテンシャルエネルギー面とダイナミクス/第1回表面真空若手オンラインスクール 立教大学/特別講義7「分子システムにおける光機能の物理化学」		

## 学習センター・学生の活動

### 周年記念式典

学習センター及びサテライトスペースでは、開設を記念した周年記念式典が開催される。

#### 放送大学兵庫学習センター開設30周年・ 姫路サテライトスペース開設20周年記念事業

2023年9月9日(土)、神戸大学出光佐三記念六甲台講堂にて、兵庫学習センター開設30周年・姫路サテライトスペース開設20周年記念式典及び記念講演会が260名の参加者を得て開催された。

式典開始に先立って、兵庫学習センターコーラスサークル「うたごえ」と学生有志、及び大阪学習センターコーラスサークル有志の方々による学歌の演奏が行われた。

式典では、岡田修一所長の式辞に始まり、岩永雅也 放送大学長、藤澤正人 神戸大学長、西田耕太郎 姫路市教育長、そして南谷雄司 兵庫学友同窓会長から祝辞をいただいた。また、須

田兵庫教育大学理事・副学長をはじめ、神戸大学大学院研究科長の方々、近畿の学習センター所長・事務長、ならびに前任教職員の方々にご臨席いただいた。

式典後の記念講演会では、放送大学長 岩永雅也先生から「ポストコロナ・AI時代の生涯学習～変わる形・変わらぬ思い～」のテーマでの講演が行われた。続いて、神戸大学名誉教授・兵庫県立大学名誉教授 室崎益輝先生の「災害の時代に正しく備える～南海トラフ沖地震の減災を確かなものにするために～」の講演が行われ、盛会のうちに閉会となった。



記念式典



講演会



講演会・室崎先生

#### 2023年度 周年一覧

SC/SS	青森	岩手	東京足立	山梨	京都	兵庫	和歌山	徳島	佐賀	鹿児島
設置年度 (西暦)	平成5 (1993)	平成5 (1993)	平成5 (1993)	昭和63 (1988)	平成5 (1993)	平成5 (1993)	平成10 (1998)	平成10 (1998)	平成10 (1998)	平成10 (1998)
2023年	30周年	30周年	30周年	35周年	30周年	30周年	25周年	25周年	25周年	25周年

### 入学者の集い・学位記授与式

3月下旬～4月上旬及び9月下旬～10月上旬に各学習センターで開催された。開催した青森学習センター・八戸サテライトスペース及び群馬学習センターの様子を紹介する。

#### 青森学習センター・八戸サテライトスペース 2023年度 第1学期 学位記授与式

「2023年度第1学期学位記授与式」を、2023年10月1日(日)に八戸サテライトスペース、10月7日(土)に青森学習センターにて開催した。今回、青森学習センターからは16名、八戸サテライトスペースからは5名の方が学位を取得された。式当日は、出席された卒業生一人一人に石川善朗所長から学位記が授与された。



#### 青森学習センター・八戸サテライトスペース 2023年度 第2学期 入学者のつどい

2023年10月1日(日)に八戸サテライトスペース、2023年10月7日(土)に青森学習センターにて「2023年度第2学期入学者のつどい」を開催した。

放送大学学歌演奏や学長挨拶の上映、石川善朗所長からの入学者の皆さんへのお祝いのご挨拶、入学生代表者からのあいさつ、在学生代表者からの歓迎のご挨拶、学生サークルの学友会会長からの祝辞、教職員紹介があり、その後ガイダンスとして、センター・サテライトの利用方法や諸手続きなどについての説明・施設見学などを行った。また、学生サークル(学友会・サイコロサークル・ミステリーサークル)の代表者から、各団体の紹介を行った。



#### 群馬学習センター 2023年度 第1学期 学位記授与式

10月7日(土)午前10時30分より、「2023年度第1学期学位記授与式」が群馬学習センターにおいて挙行されました。式は群馬混声合唱部による学歌斉唱から始まり、工藤所長から卒業生に学位記等が授与され、学長挨拶(録画動画)、所長挨拶、センター所属客員教員や同窓会長からの祝辞が述べられ、式を終えました。

群馬学習センターでは、学部生43名が新たな一歩を踏み出しました。世の中が感染症等の影響で大変な状況の中、今日の晴れの日を迎えられたことは日頃の皆様の努力の賜物と思います。

本学で出会った仲間と学びを大切に、いきいきと活躍されることを願っております。



#### 群馬学習センター 2023年度 第2学期 入学者の集い

10月7日(土)午後1時30分より、群馬学習センター所属入学生を対象とした「2023年度第2学期入学者の集い」が挙行され、新たな学生を迎えました。「入学者の集い」には35名が出席し、学生サークル群馬混声合唱部による学歌斉唱、学長メッセージ(録画動画)、工藤所長からの挨拶に続き、客員教員や同窓会長からの歓迎の言葉がありました。

第2学期は、学部生272名、大学院生17名の、合わせて289名の方が群馬学習センター所属として入学されました。入学者におかれましては、これからの新たな学びと仲間との出会いに胸を膨らませていることと思います。師に学び、夢や目標に向かって進んでいけることを心より応援しています。



## 文化祭

毎年、多くの学習センターで文化祭を開催し、学生の学習成果や学生団体(サークル)活動の成果を発表、披露している。今年度も文化祭中止があったが、多くの学習センターでは感染防止対策を講じた上で開催した。

### 大阪学習センター「第16回放大河堀祭(こぼれさい)」

2023年10月15日(日)、「十人十色ー多様性を求めてー」を全体テーマに、第16回放大河堀祭を開催しました。心地よい秋晴れの中、学生や一般の方、約300名に会場いただきました。開催に向け、公認サークル代表者から構成する実行委員会は半年以上前から準備を重ね、当日は、大阪学習センター6階・7階会場でサークル、大阪学友・同窓会等企画による全18イベントを展開しました。

#### ■イベントの紹介

朝一番のイベントは「ピアノを囲む音楽会」で、金水所長の美しいフルートの音色で幕を開けました。一日中、会場からは楽器の演奏や歌声が聞こえ、社交ダンスの舞披露、手作り品のバザー、同時開催の「第17回美術展」では多くの絵画や工芸品が展示されました。コロナ禍以降、4年ぶりに飲食物の提供を再開したこともあり、従前の活気を取り戻しつつある様子は、来場者に大変好評でした。会場内ではスタンプラリーを開催し、最後はスタンプで交換したビンゴカードを持ってビンゴ大会に集い、「世界に一つだけの花」の合唱で大いに盛り上がりました。

### 第16回放大河堀祭公開講演会「大阪の語り方」

11時から、放大河堀祭メインイベントである公開講演会「大阪の語り方」を開催しました。講師に、国際日本文化研究センター井上章一所长をお迎えし、事前申込みされた88名に会場いただきました。講演は、2023年旬の阪神タイガースの話題から始まり、1970年の大阪万博など社会の転換点となったイベントから、メディアの影響による「面白い」大阪人へのイメージの変遷について等々、井上先生の独特の視点から、大阪の過去、現在、そして未来について、大変興味深いお話をいただきました。先生のユーモアあふれる語り、会場は「笑い」があふれ、大阪学習センターらしい講演会となりました。



## 公開講演会

学習センターでは、誰でも参加できる公開講演会、公開講座、シンポジウム等を多数開催している。本学教員に加え、各地域や分野で活躍する多彩な方々を講師にお招きし、本学学生に限らず、地域の人々に役立つ様々な話題について最新の知識が得られ、共に考える機会を提供した。

**茨城**  
学習センター

**テーマ** 「サバイバーズ・ギルドについての一研究～ 交通事故生存者の苦悩から～」  
**講師** 梁田 知代子

**テーマ** 「インド・ヨーロッパ語族の原郷を求めて」  
**講師** 田辺 裕美

**テーマ** 「ライデン大学図書館 シーボルトコレクションの紹介」  
**講師** 小野寺 淳

**会場** 茨城県立図書館2階視聴覚ホール

2023年9月2日(土)茨城県立図書館2階視聴覚ホールにおいて、茨城学習センターの教員と学生による「第12回教員・学生講演会」が開催されました。この学生講演会は、学生が培った知的蓄積を地域社会に向けて発信する場として2010年から始まり、コロナ禍の影響で一時的に中止しておりましたが、2022年に再開し、今年度で12回目の開催となりました。今年度は、卒業生の梁田知代子さん「サバイバーズ・ギルドについての一研究～ 交通事故生存者の苦悩から～」、全科履修生(情報コース)の田辺裕美さん「インド・ヨーロッパ語族の原郷を求めて」、小野寺淳所長による「ライデン大学図書館 シーボルトコレクションの紹介」など、多様なトピックに焦点を当てた講演が行われました。この講演内容は、当学習センターで毎年3月に発行している学生論集「茨城SCフォーラム」に掲載されています。「茨城SCフォーラム」は茨城学習センターホームページの機関紙紹介ページにバックナンバーを含めて掲載しておりますので、皆さま、ぜひ一度ご覧ください。(※学生論集「茨城SCフォーラム」は、学生の研究論文、調査報告、技術問題などの解説、先生方や学生の随筆などを掲載することにより、茨城学習センターにおける知的交流の場を提供することを目的としております。)

**福井**  
学習センター

**テーマ** 「支援が必要な人を支える仕事を考えるー2回連続開催の参加型ワークショップー」  
**開催日** 【第1回】令和5年8月27日(日)  
【第2回】令和5年10月1日(日)  
**講師** 小島 操 (主任介護支援専門員、社会福祉士、精神保健福祉士)  
**コーディネータ** 石井パークマン 麻子 (福井学習センター客員教員、福井大学名誉教授)  
**会場** 放送大学福井学習センター 講義室1

目の前にいる支援が必要な人の本当の意思や気持ちを、職業人あるいは家族としてきちんと聴くためには何が必要なのでしょう。参加者それぞれの経験や場面などを振り返るとともに、出発点にしながら考え合うー第1回の後の1か月間で気づいたことや実践したことなどを第2回に持ち寄り、いつもとは異なる視点から日常の場面を見直し考えを深めていくー2回連続の講座を開催しました。【第1回】小島先生が、介護支援業務で最も大切な相談援助における言語技術の要点を講義されました。続いて、参加者全員が円形にイスを並べて、共感的な受け答えで相手の気持ちを理解する技術を学びました。さらに2名ずつに分かれ、自由に場面を設定して「面接技術」の演習をしました。【第2回】各参加者が1か月間の体験事例や考え方の変化などを報告し、演習の成果を確認しました。続いて、介護や不登校などの具体的な相談事例を想定し、2名ずつロールプレイを行いました。どの参加者も、演習で学んだ技術を踏まえつつ、迫真の演技を披露し、会場は感嘆に包まれました。演習中心の2回連続の講座は、参加者全員が支援に役立つ実践的な学びを得られました。

## 学生研修旅行

学習センターでは、学習活動の一つとして、研修旅行を年1回程度開催している。研修旅行は、学生・教職員の親睦のよい機会ともなっている。訪問先は、学術機関、地域の名所・旧跡、体験学習など多彩である。

### 熊本学習センター学生研修旅行

熊本学習センターでは、2023年11月23日(木・祝)に、4年ぶりとなる学生研修旅行を実施しました。学生・職員の24名が参加し、福岡県太宰府市の九州国立博物館における特別展「古代メキシコ マヤ、アステカ、テオティワカン展」で古代文明の多彩な出土品等を見学し、多様な環境から生み出された独自の世界観と造形美を通して文明の奥深さと魅力を学びました。さらに、隣接する太宰府天満宮では、ご本殿の124年ぶりの大改修により3年間の限定公開となる「森を載せた屋根を持つ仮殿」を見学するなどして参拝しました。

また、博多の食と文化の博物館「ハクハク」では、ふくや明太子工場見学を通じて、博多の食文化を代表する明太子の製法や歴史について学び、さらに実際に明太子づくりを体験して、より深く食文化について学びました。

今回の学生研修旅行は久しぶりの実施となることから、学生同士の交流も積極的に行われ、充実した学生研修旅行となり、参加した学生からも好評でした。



#### 《学生研修旅行行程》

熊本学習センター(7:50出発) → 九州国立博物館(特別展「古代メキシコ マヤ、アステカ、テオティワカン展」観覧) → 太宰府天満宮ご本殿参拝 → 昼食 → 博多の食と文化の博物館「ハクハク」(明太子工場見学) → 熊本学習センター(18:30到着)

## 学生団体(サークル)活動

学生同士の親睦を深め豊かなキャンパスライフを築くため、  
本学はサークル活動を支援している。年齢や人生経験が異なる人達との交流が、共通の目的を持って活発に行われた。



### Voice of the Circle

#### 【にいがたピアサポート】

「学生同士の助けあい、学びあい」

代表 中村 優美



私たち「にいがたピアサポート」は、放送大学の学生同士で助けあい、学びあうことを目的とした学生生活支援サークルです。

主に毎月第3土曜、《学習交流会》をセンター現地×Zoomのハイブリッドで開催しています。設立からコロナ禍を経て、ピアサポートは活動方法を変えながらも継続して「学生の居場所」を作って参りました。毎月参加、単発で1回だけ、途中から

等々、申し込み不要で自由にご参加いただけます。単位認定試験前の交流会では具体的な工夫や、試験後は来学期の科目選択に向けた情報交換も役立つことでしょう。新入生も、学びの意欲に満ちた在生も、垣根のない意見交換・情報共有をしませんか。また、全国の学習センターで『学生同士のピアサポート』を行っている団体との連携も図る予定です。広く全国の放送大生と繋がってみたい方、新潟SCを盛り上げたいと思う方、ぜひぜひ、お力をお貸しください。楽しい、意義があると思える時間を、自分達で作っていきましょう！



### Voice of the Circle

#### 【ぶら多摩クラブ】

一歩いて健康・歩いて親交・歩いて勉強—

猪木 誠二



多摩地域を主に、「ぶらぶら」と自然を楽しみ、歴史、産業なども学習しながら参加者とともに歩いています。サークルのモットーは、「歩いて健康」「歩いて親交」「歩いて勉強」です。

2013年9月から現在までに92回開催していますが、多摩地域のみならず、興味の赴くまま、都心、埼玉、神奈川方面へも番外編として進出しています。

目的別では、街道、川、丘陵などに沿って、その左右の、公園・庭園、神社仏

閣、庚申塚、道標なども散策の対象としています。車であれば単に通るだけのところが、歩けば、街並み、山並み、咲いている草花、地元の方々との立ち話、さまざまに興味を惹かれます。

2023年度は「野川を歩く」を2回行い湧水を探しました。「立川崖線を探せ」を2回行い多摩の地形を学びました。善福寺川沿いでは文化人の邸宅などを巡り、隅田川沿いでは橋巡りをしました。さらに武蔵野地区の戦争遺跡、大山街道の長津田宿を中心に訪ねました。大学ではなかなか人と知り合いになれないことがありますが、活動を通して多くの方々と親交ができています。



## Annual Review 2023

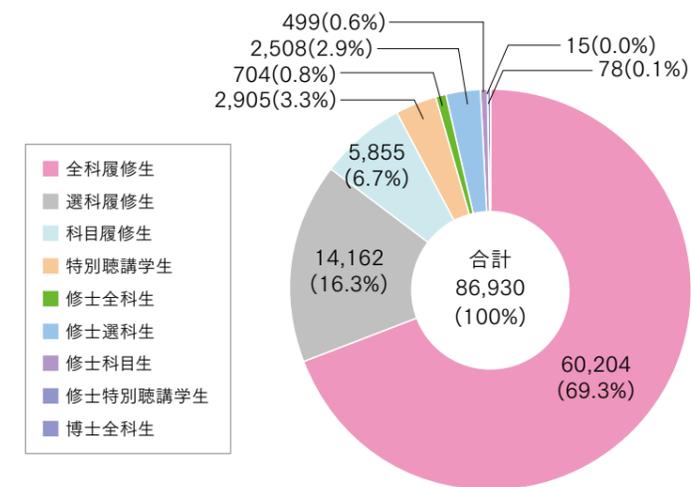
# データで見る放送大学

### 在学生数

単位:人

教養学部	学生の種別等	在学生
	全科履修生	60,204
	選科履修生	14,162
	科目履修生	5,855
	特別聴講学生	2,905
	合計	83,126
大学院	学生の種別等	在学生
	修士全科生	704
	修士選科生	2,508
	修士科目生	499
	修士特別聴講学生	15
	博士全科生	78
	合計	3,804

(2023年度第2学期)



(注)特別聴講学生とは、他の大学等の学生で当該大学等と放送大学との協定に基づき、本学において科目の履修を行っている学生です。

### 入学者数

単位:人

教養学部	学生の種別等	1学期	2学期	合計
	全科履修生	7,910	4,123	12,033
	選科履修生	9,541	4,545	14,086
	科目履修生	4,877	5,855	10,732
	特別聴講学生	941	2,905	3,846
	合計	23,269	17,428	40,697
大学院	学生の種別等	1学期	2学期	合計
	修士全科生	234	—	234
	修士選科生	1,777	696	2,473
	修士科目生	380	499	879
	修士特別聴講学生	24	15	39
	博士全科生	16	—	16
	合計	2,431	1,210	3,641

(2023年度)

### 学部卒業者数

単位:人

1学期	2学期	合計	累計
2,256	4,024	6,280	131,306

(2023年度)

### 大学院修士課程修了者数

単位:人

1学期	2学期	合計	累計
6	213	219	6,887

(2023年度)

### 大学院博士後期課程修了者数

単位:人

1学期	2学期	合計	累計
—	3	3	39

(2023年度)

### 集中科目履修生

単位:人

学生の種別等	在学生
学校図書館司書教諭講習	751

(2023年度)

### 教職員数

単位:人

役員	6
教員	89
学習センター所長	50
事務職員	254
合計	399

(2023年4月1日現在)

### 単位互換協定締結校数

単位:校

学校の種別	校数
大学院	15
大学	320
短大	94
高专	17
合計	446

(2024年3月31日現在)